

宮城大学履修ガイド
看護学群

MIYAGI UNIVERSITY
CURRICULUM GUIDE 2020

SCHOOL OF
NURSING

はじめに

この「履修ガイド」には、宮城大学に入学された皆さんにとって、大学での4年間の学びが充実したものとなるよう学修計画を立て、実現していくために必要となる基本的な情報がまとめられています。

大学では、高校までとは違い、入学した当初から自分自身で考え、行動することが求められます。高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められており、自分自身で考えて授業科目を選択することはあまりなかったかもしれませんが、大学では、多くの授業科目の中から、自分の勉強したい科目を調べ、登録するといった作業を自分の判断で責任を持って行わなければなりません。この一連の履修に関係する要件や各種手続きのほか、入学から卒業までの基本的な流れ、基盤教育・専門教育課程の特徴等を「履修ガイド」で説明しています。

また、宮城大学では、学群・学類・コースごとに「進級・卒業に必要な単位数」を定めています。この条件を満たし、順調に進級・卒業できるよう、この「履修ガイド」を熟読した上で、各授業科目の内容が記載された「シラバス」を活用して、卒業後の進路も見据え、納得のいく学修計画を立ててください。

「履修ガイド」は、入学時だけではなく、毎年の履修登録のとき、学修計画や進路で迷ったり、分からないことに出会ったとき、読み返してみることで、解決の方法や糸口が見つかるような「便利帳」の役割も果たしていますので、卒業まで大切に手元に置いて活用してください。

目次

I	宮城大学カリキュラムの全体像	06	III	履修登録	18
①	宮城大学の教育目標	06	①	履修登録とは	18
②	宮城大学の教育基本方針	06	②	履修登録の手順	18
③	学群・学類について	06	(1)	事前作業	18
			(2)	履修登録	18
			(3)	履修登録修正	18
			(4)	時間割の印刷	19
			(5)	事務部へ学生時間割を提出	19
			(6)	履修登録取消期間	19
			(7)	履修登録科目の確定	19
			③	履修登録上の留意点	19
			(1)	履修登録可能な単位数の上限	19
			(2)	単位修得済み科目の履修登録の禁止	19
			(3)	集中講義科目の日程確認	19
			(4)	その他	19
			④	科目ナンバリング	19
			(1)	科目ナンバリングとは	19
			(2)	付番方法	19
II	総論	09	IV	全学共通科目 ほか	21
①	入学から卒業までの基本的な流れ	09	①	コミュニティ・プランナープログラムについて	21
②	学群とキャンパスについて	09	(1)	コミュニティ・プランナープログラムとは	21
③	学年及び休業日と、学期、時間割について	09	(2)	単位	21
(1)	学年、学期及び休業日	09	(3)	プログラムの考え方および特色	22
(2)	時間割	09	(4)	履修方法および履修手続等	22
④	学籍と在学期間について	10	②	他学群・他学類履修、他大学等履修、 入学前既修得単位の単位認定について	24
(1)	学籍の異動	10	(1)	他学群又は他学類の履修について	24
(2)	修業年限及び休学期間の限度、在学年限	10	(2)	単位認定に係る申請について	24
⑤	単位について	11	(3)	単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について	24
(1)	単位の計算基準	11	(4)	振替できない科目の卒業要件単位数への算入について	25
(2)	卒業要件単位数	11	(5)	単位認定を受けた授業科目の成績表記について	25
(3)	単位認定について	11	③	学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度	26
⑥	履修登録について	12	(1)	学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは	26
⑦	授業について	12	(2)	単位互換制度の申請方法	26
(1)	授業科目	12	④	学外研修・グローバルインターンシップ	27
(2)	シラバス(授業計画書)	12	(1)	学外研修・グローバルインターンシップとは	27
(3)	授業への欠席及び遅刻	12	(2)	科目の履修方法	27
(4)	休講	12	V	基盤教育	31
(5)	補講	12		基盤教育の教育目標	32
(6)	学生による授業評価について	12	①	フレッシュマンコア	33
⑧	成績の評価方法について	13	(1)	フレッシュマンコア (FC)とは	33
(1)	試験	13	(2)	フレッシュマンコアの基幹科目	33
(2)	レポート・製作物等の提出方法	13	②	基礎教育における4つの科目分野	35
(3)	追試験	13	(1)	グローバルコミュニケーション分野 (GC)	35
(4)	再試験	13	(2)	ソーシャルサイエンス分野 (SS)	35
(5)	不正行為について	14	(3)	ナチュラルサイエンス分野 (NS)	35
(6)	グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について	14	(4)	アートサイエンス分野 (AS)	35
(7)	成績発表について	14	③	留学生対象科目	36
(8)	GPA制度	14	④	教育課程の一覧	36
(9)	学修状況チェックシステム alagin(アラジン)M1 について	14			
⑨	進級について	15			
⑩	学類の決定・履修コースの選択について	15			
(1)	学類の決定	15			
(2)	履修コースの選択	15			
⑪	転学群・転学類及びコース変更について	15			
(1)	転学群・転学類について	15			
(2)	コース変更について	15			
⑫	卒業認定・学位授与について	16			
⑬	学修支援について	16			
(1)	教員へ相談したいとき	16			
(2)	職員へ相談したいとき	16			
(3)	学生相談室、保健室について	16			
(4)	合理的配慮について	16			
⑭	その他	17			
(1)	大学からの連絡	17			
(2)	気象状況や自然災害等による休講・試験の延期	17			
(3)	学生保険について	17			
(4)	経済支援について	17			

VI	看護学群	37
①	看護学群看護学類について	37
	(1)カリキュラムの特徴	37
	(2)看護学類の教育目標	38
	(3)看護学類のカリキュラムマップ	39
	(4)看護学類の4年間の学びの流れ	40
	(5)看護学類の科目関連図	42
②	看護学類の科目配当表	46
	(1)看護師教育課程科目配当表	46
	(2)保健師教育課程科目配当表	48
	(3)養護教諭教育課程科目配当表	50
③	卒業に必要な単位数及び卒業要件	52
④	教育課程の特色	53
	(1)基盤教育科目	53
	(2)専門教育科目	53
⑤	看護師教育課程	54
⑥	保健師教育課程	55
	(1)保健師国家試験受験資格について	55
	(2)選択科目の履修・単位修得について	55
	(3)「公衆衛生看護学実習」について	55
⑦	養護教諭教育課程	56
	(1)養護教諭一種免許状の取得について	56
	(2)選択科目の履修・単位修得について	56
	(3)養護実習・教職実践演習について	56
⑧	履修での留意事項等	57
⑨	履修モデル	58

建学の理念

本学は、ホスピタリティ精神やアメニティ感覚に溢れ、高度な専門性と実践的能力を身につけた、地域の発展をリードし、世界に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

建学の精神

快い生活環境（アメニティ）に身を置き、心温まる人間関係（ホスピタリティ）に囲まれていることは成熟社会に生きる万人の願いであり、このような地域社会を実現させるために「ホスピタリティとアメニティの究明と実現」を目指す。

大学の理念

高度な実学に基づき、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を身につけ、グローバルな視点で地域社会の発展に貢献できる人材を育成するとともに、学術・文化の向上と豊かで活力のある地域社会の形成に寄与する。

豊かな人間性	先人たちの考えや相手の価値観を尊重し、知性と感性を涵養することで自らの人間性を磨いていく。
高度な専門性	関連するあらゆる学問や技術に関心を寄せ、自らの専門性を高め、時々刻々と変化する社会にしなやかに、かつ、柔軟に対応できる力を身につける。
確かな実践力	地域に根ざし、グローバルな視点で自ら主体的に考え、強い意志を持って実践していく。

大学の目的

本学は、地域社会及び国内外の大学・研究機関等との自由かつ緊密な交流及び連携のもとに、看護、事業構想、食産業及びそれらの基盤となる学問に関する教育研究を行うことにより、学術文化の振興に資するとともに、豊かな人間性、高度な専門性及び確かな実践力を備えた人材を育成し、もって地域の産業及び社会の発展に寄与することを目的とする。

各学群の教育研究上の目的

看護学群	生命の尊厳を基盤とする豊かな人間力を備えて、科学的思考力とマネジメント能力をもち、ヒューマンケアを中核とした創造的な看護を展開し、地域社会及び多分野・異文化の人々と協働して学際的及び国際的に活躍できる人材を育成すること。
事業構想学群	現代社会の諸課題を多角的・グローバルな視点で論理的にとらえ、その課題解決に向けた事業を実行可能かつ持続可能なものとして構築する能力を身につけるとともに、豊かな人間性を基盤として地域資源の活用や新たな価値創造を志向し、産業、行政及び社会の各分野で先導的役割を担うことができる人材を育成すること。
食産業学群	食資源開発及び食材生産から食品製造・流通・消費に至るまでのフードシステムについて幅広い科学的知識と技術を持ち、豊かな人間性に基づいて食産業全体及び地域社会を理解し、東北地域から世界まであらゆるレベルで食の未来を開拓できる意欲と能力を有する人材を育成すること。

I. 宮城大学カリキュラムの全体像

1 宮城大学の教育目標

宮城大学の建学の理念、目的を踏まえ、主体性を持って協働的に行動し、社会の持続的な発展に貢献できる人材の育成を教育目標として定めています。

2 宮城大学の教育基本方針（ディプロマポリシーとカリキュラムポリシー）

(1) ディプロマポリシーとは

宮城大学の教育目標に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定めた基本的な方針を「ディプロマポリシー」といいます。これは、学生の学修成果の目標ともなるものです。

(2) カリキュラムポリシーとは

「ディプロマポリシー」の達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定めた基本的な方針を「カリキュラムポリシー」といいます。

※基盤教育・各学群・学類のディプロマポリシーとカリキュラムポリシーは、各章の教育目標を参照してください。

3 学群・学類について

宮城大学は、学群・学類（3学群・6学類）により構成されています。

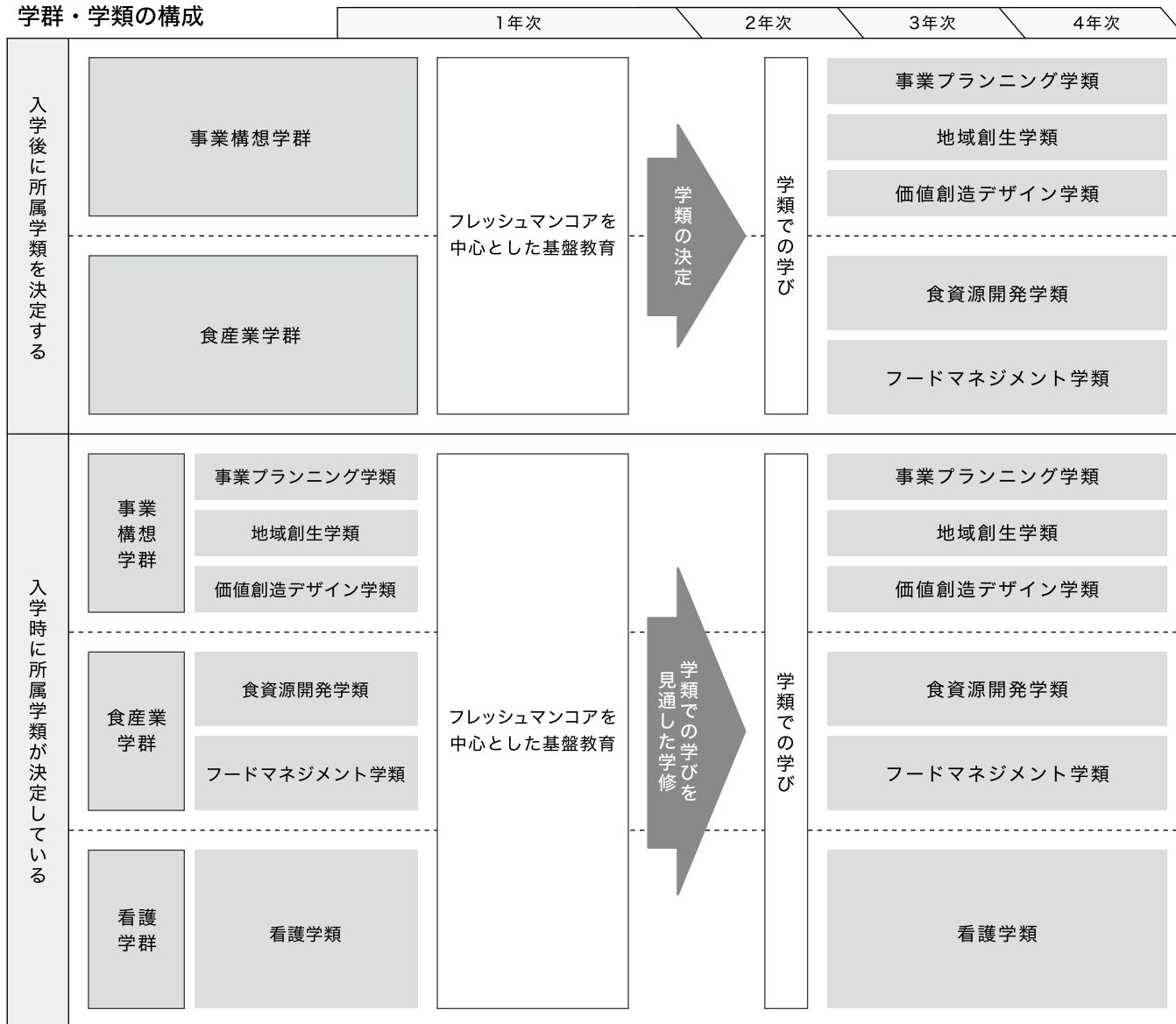
学群	学類
看護学群	看護学類
事業構想学群	事業プランニング学類
	地域創生学類
	価値創造デザイン学類
食産業学群	食資源開発学類
	フードマネジメント学類

看護学群では、入学時に所属する学類が決まっており、2年次からの学びを見通し、1年次から学修に取り組むことができます。

また、事業構想学群及び食産業学群（一部入学生を除く）では、2年次に所属する学類が決定されます（AO入試での入学生を除く）。入学後1年間をかけてマッチングを行い、自分が進む学類を決定します。

※基盤教育・各学群・学類のカリキュラムの詳細は、各章のカリキュラムの特徴を参照してください。

学群・学類の構成



I

宮城大学カリキュラムの全体像

II

総論

III

履修登録

IV

全学共通科目ほか

V

基盤教育

II. 総論

ここでは、宮城大学における教育課程の修業に係る共通事項を説明します。これらの内容の詳細は、宮城大学学則、宮城大学履修規程及び宮城大学学位規程に記載されています。

1 入学から卒業までの基本的な流れ

入学から卒業・学位授与までの基本的な流れは下図のとおりです。それぞれの段階で必要な手続きや申請がありますので注意してください。



2 学群とキャンパスについて

宮城大学では、看護学群・事業構想学群・食産業学群及び各研究科を設置しています。それぞれの学群は、以下のキャンパスに所在しています。

	宮城大学大和キャンパス	宮城大学太白キャンパス
設置学群	看護学群・事業構想学群及び研究科	食産業学群及び研究科
住所	〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1 番地 1	〒982-0215 宮城県仙台市太白区旗立 2-2-1
電話	022-377-8205	022-245-2211

3 学年及び休業日と、学期、時間割について (学則第 6 条、第 7 条、第 8 条)

(1) 学年、学期及び休業日

本学の教育課程は、以下の日程で運用しています。また、学年を前期と後期にわけて単位認定を行う「前後期制」を採用しています。

	期間
学年	4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。
前期	4月1日から9月30日まで
後期	10月1日から3月31日まで
休業日	土・日・祝日・開学記念日5月1日
春季休業日 夏季休業日 冬季休業日	別に定める。(春季・夏季・冬季休業の日程は年度ごとに変更になる場合があります。当該年度の長期休業の日程は、学内ウェブサイトの「学年暦」を確認してください。)

※後期の授業開始日は、10月1日より前となる場合があります。

※なお、定期試験は、前期・後期末に期間を定めて実施します。

(2) 時間割

授業は、前期・後期の期間内のうち、月曜日から金曜日まで、下表の時間割に沿って行われます。

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時刻	8 : 50 } 10 : 20	10 : 30 } 12 : 00	12 : 50 } 14 : 20	14 : 30 } 16 : 00	16 : 10 } 17 : 40

また、通常の時間割以外に、以下の開講形態があります。

①集中講義：夏季休業等の休業日に、集中的に授業を開講するものです。

②隔週開講：1 週おきに開講するものです。

③指定日開講：特定の日時に開講するものです。

その他、学外の実習等、通常の時間割以外の時間帯に授業を行う場合があります。

4 学籍と在学期間について (学則第 18 条、第 19 条、第 21 条、第 23 条、第 24 条、第 26 条)

学籍とは、本学に所属する学生であることを示す籍をいいます。

(1) 学籍の異動

本学に入学してから卒業するまでの間、通常通り修業する状況を「在学」として取り扱います。学生の申請や大学の決定により「休学」「転学」「退学」「除籍」として学籍を異動する場合があります。これら学籍の異動に必要な手続きは、学内ウェブサイト参照してください。

また、学籍の異動は、進級要件や卒業要件、授業料免除申請や奨学金の付与等に影響することがあります。

(2) 修業年限及び休学期間の限度、在学年限

本学では、必要な修業の期間や、在学できる期間の限度を以下のとおり定めています。

- ・ 修業期間：修業した期間を「修業期間」といいます。
- ・ 修業年限：卒業までに修業すべき年数を定めています。
- ・ 在学期間：在学した期間を「在学期間」といいます。
- ・ 在学年限：在学できる年数です。在学年限を超えて在学することはできません。
- ・ 休学期間：休学した期間を「休学期間」といいます。休学期間は、修業期間や在学期間には含みません。

修業年限	在学年限	休学期間の限度
4 年	8 年	4 年

※引き続き 1 年を超えて休学することはできません。ただし、特別の理由がある場合は、学長の許可を得て休学期間を 2 年まで延長することができます。

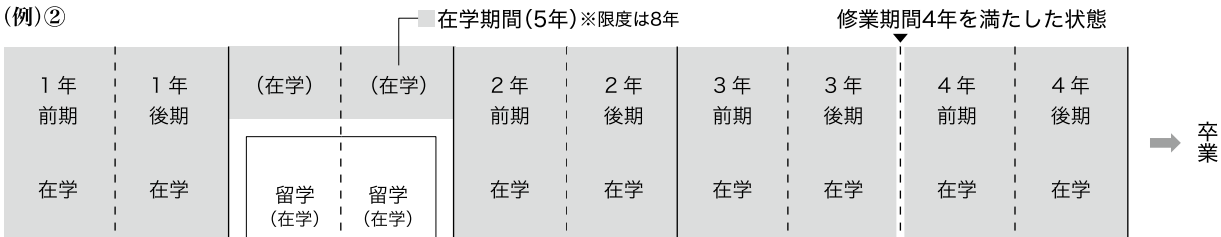
※編入学・転入学・再入学・転学を許可された学生の在学期間及び在学年限については、関係規程により個々に定められます。

(例)①



本学に在籍した期間の合計(4年)

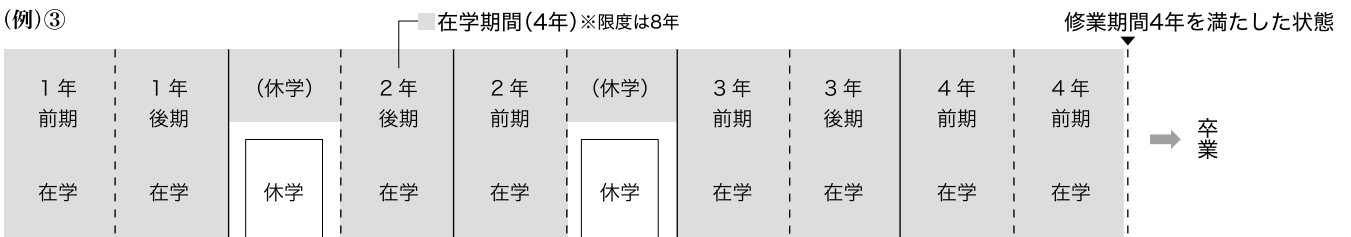
(例)②



□学長の許可を受けて留学する場合、在学期間に算入することができます。

本学に在籍した期間の合計(5年)

(例)③



□休学期間(1年)※限度は4年

本学に在籍した期間の合計(5年)

5 単位について (学則第35条、第36条、第37条、第38条、第39条、第40条、第41条、宮城大学他学群・他学類履修及び他大学履修に関する実施要項)

単位とは、各科目の授業時間と学修の量を数値で示したものです。学群ごとに卒業に必要な単位数が定められており、個々の科目について所定の時間を履修し、試験その他の方法により合格と判定されたときに、はじめて修得できます。また、授業の開講形態（講義、演習、実習等）、開講時間数等により修得できる単位数が定められています。

(1) 単位の計算基準

授業科目「1単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて45時間の学修時間により構成されることを基準としています。また、講義、演習、実習等の授業の方法に応じ、概ね以下の授業時間及び単位数としています。

講義	1時限（90分）の授業15回と事前・事後学修で2単位
演習	1時限（90分）の授業15回と事前・事後学修で1単位（2時限構成の場合2単位）
実験・実習・実技	2時限（180分）又は3時限（270分）の授業15回で1単位とします。 実験・実習と講義の併用は、2時限分の授業15回と事前・事後学習で2単位とします。

(2) 卒業要件単位数

卒業するためには、前述の修業年限を満たした上で、各学群で定める所定の卒業要件単位数を修得しなければなりません。必要単位数は下表のとおりです。

	看護学群	事業構想学群	食産業学群
卒業要件単位数	126単位	125単位	127単位

(3) 単位認定について

合格した科目の単位は、前期・後期末に認定されます。集中講義については、開講時期に応じて、通常の科目と単位認定時期が異なる場合がありますので注意してください。なお、前期・後期の途中で退学・休学・除籍をした場合、その期に履修している科目の単位は認定されません。

また、他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他の大学又は短期大学における授業科目の履修、大学以外の教育施設における学修、入学前の既修得単位についても、申請・審査のうえ、学長が教育上有益と認められる場合、他学群・他学類の授業科目で修得した単位数と合わせて60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

これらの他学群・他学類履修、他大学等履修、入学前単位の履修・単位認定に係る申請や、本学開講科目との振替、卒業要件単位への算入などについては、詳細をP24（IV全学共通科目ほか）に記載しています。



6 履修登録について (履修規程第3条、第4条、第5条)

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、履修登録が必要です。履修登録の手順の詳細はP18(III履修登録)に記載しています。

7 授業について

(1) 授業科目

授業科目には、講義、演習、実験・実習、実技があり、必修科目、選択必修科目、選択科目に大別されます。卒業要件として、これらの科目の修得単位数をそれぞれ定めています。

必修科目	学群、学類、コースにおいて、その教育目的を達成するために、修得が義務付けられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択必修科目	指定された科目群の中から、学生が一定数の科目を選択して修得することが義務づけられている科目です。修得が進級要件に含まれる場合があります。
選択科目	学生の自由選択により履修することができる科目です。

(2) シラバス (授業計画書)

授業科目毎の授業内容を明示した授業計画等を「シラバス (syllabus)」といいます。

- ・シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法などが簡潔に説明されています。
- ・学内ウェブサイトの「学務管理システム」で参照することができます。
- ・シラバスは、履修登録の際や、履修の過程において、授業の目的や、全体の流れを確認することに活用してください。

(3) 授業への欠席及び遅刻

単位の修得には、授業への出席が必要です。

- ・一定の出席時間に満たない場合は、試験の受験資格を喪失します。
- ・欠席届や忌引の取扱いはありません。欠席及び遅刻に対する取扱いは担当教員が判断します。
- ・学校感染症 (インフルエンザ等) と診断された、または、その疑いがあると診断されたら、出席停止となります。出席停止の扱いを受けるためには、所定の手続きが必要です。詳細については大学 HP を参照してください。

(4) 休講

授業が休止になることを休講といいます。休講は、下表の方法で連絡します。

大和キャンパス	学務管理システムに掲載
太白キャンパス	講義棟1階の掲示板等に掲載、学務管理システムに掲載

※なお、休講は担当教員の都合による他、気象状況や自然災害等による場合があります。気象状況や自然災害等における休講・試験の延期については、P17に記載されています。

(5) 補講

補講は、休講等により授業時間が不足し、所定の内容が修得しきれないと教員が判断した場合に行われます。補講の有無は、授業中にアナウンスされるほか、休講の連絡方法と同様の方法で連絡します。

(6) 学生による授業評価について

本学では、授業をより充実したものに改善することを目的に、学生による授業評価アンケートを実施しています。学期末に学内ウェブサイト等で案内されますので、履修した科目について回答してください。



8 成績の評価方法について (履修規程第7条、第8条、第9条、第10条、第11条)

授業科目における成績は、シラバスで示された授業の到達目標に対する学生の学修到達度によって下表のように評価されます。「秀」、「優」、「良」及び「可」を合格として単位が付与されます。学修到達度は、その授業の開講時期の末に期間を定めて行う試験によって評価されます。

なお、必修科目について成績の評価が「不可」となり、単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修を行い、単位を修得する必要がありますので注意してください。

評価	評点	学修到達度との関係
秀	90点以上	学修到達度が特に優秀な水準で到達目標に達している。
優	80点以上90点未満	学修到達度が優秀な水準で到達目標に達している。
良	70点以上80点未満	学修到達度が良好な水準で到達目標に達している。
可	60点以上70点未満	学修到達度が到達目標に達している。
不可	60点未満	学修到達度が到達目標に達していない。

(1) 試験 (履修規定第7条)

期末試験は、筆記試験、口述試験、実技試験又は実験、実習、課題レポートにより行います。受験の際は、学生証を机上に提示することで本人確認を行いますので、学生証を必ず持参してください。下表の内容に該当する場合は、試験を受けることができませんので注意してください。

①	履修登録をしていない学生。
②	出席時間が授業時間の5分の4に満たない学生。
③	試験時刻に20分を超えて遅参した学生。

期末試験の日程は、試験期間開始前に、大和キャンパスにおいては事務局前掲示板で、太白キャンパスにおいては講義棟1階の掲示板でお知らせします。

(2) レポート・制作物等の提出方法

レポート・制作物等を提出する際は、次の点に注意してください。

提出方法	担当教員により、提出場所や方法の指示がなされますので、指示に従ってください。 また、提出期限を必ず守って、所定の場所に提出してください。 下記のレポートボックスへ提出が指示される場合があります。	
	[大和キャンパスレポートボックス] ※本部棟3階及び4階、研究ラウンジ受付に設置	[太白キャンパスレポートボックス] ※管理棟1階事務部窓口付近に設置
※誤って他の科目のレポートボックスに投函されたレポートは、提出期限後に未提出扱いとして本人に返却します。		
記載事項	①所属学群・学類・コース、②学籍番号、③氏名、④授業科目名、⑤担当教員名を記載してください。 その他担当教員から指示された事項があれば記入してください。 氏名等が未記入の場合は、評価の対象となりませんので注意してください。	

(3) 追試験 (履修規定第9条)

所定の試験に欠席した学生に対する追試験は実施しません。ただし、病気その他特別の理由によりやむを得ず受験できなかった学生に対しては、本人からの願い出により追試験を行うことがあります。追試験の申請は、試験終了後1週間以内に、所定の様式により申請を行い、担当教員の承認を得る必要があります。様式や添付書類等は、学内ウェブサイトを参照してください。

(4) 再試験 (履修規定第10条)

試験を受験して不合格になった学生に対する再試験も実施しません。ただし、試験終了後に教授会等が必要と認めた場合は実施されることがあります。なお、再試験の成績評価は可が上限となります。



(5) 不正行為について（学則第 30 条、履修規定第 11 条）

試験において不正行為をした学生に対しては、当該学期に登録しているすべての履修科目の成績が不可となるほか、学則による懲戒処分を行います。

・授業の出席に関し虚偽申告を行った学生に対しては、当該科目の成績評価は不可となるほか、その不正行為の状況によっては、学則により懲戒処分を行うことがあります。

(6) グローバルコミュニケーション科目の受験資格の認定について

基盤教育の「グローバルコミュニケーション科目」では、学外の検定試験等において所定の条件を満たした場合、申請・審査の上、授業の出席を一部免除することができます。ただし、学外の検定試験等については、入学後に受験したものに限られるほか、出席を一部免除された場合でも、定期試験は必ず受験する必要がありますので注意してください。

詳しくは「グローバルコミュニケーション科目」の専任教員へお問合せください。

(7) 成績発表について

授業科目における成績の評価については、前期は 9 月末、後期は 3 月末に学修状況チェックシステム alaginM1 で確認することができます（詳細は「(8) 学修状況チェックシステム alaginM1 について」を参照）。また、評価の内容は成績証明書に反映されます。

※「不可」の評価となった科目に限り、今後の学修に資するため、成績発表日を含む 10 日間のみ、成績質問を受け付けます。成績質問は、学内ウェブサイトから所定の様式を取得し、提出してください。

(8) GPA 制度

本学では、GPA 制度を採用しています。GPA（グレードポイント平均値）とは、各授業科目の評点に基づき GP（グレードポイント）を付与して算出する、1 単位あたりの平均値です。GP は次の式により求めた値とします。

$GP = (\text{評点} - 55) / 10$ ただし、 $GP < 0$ 、5 は $GP = 0$ 、0 とする。

・学修状況および成果を示す指標として「学期 GPA」「年度 GPA」「通算 GPA」の 3 種類を設定しています。計算式は以下としており、小数点第 3 位以下を切り捨てて表記しています。

① 学期 GPA の計算式

（その学期に評価を受けた科目で得た GP × その科目の単位数）の合計

学期 GPA = $\frac{\text{その学期に評価を受けた科目で得た GP} \times \text{その科目の単位数の合計}}{\text{その学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$

② 年度 GPA の計算式

（その年度に評価を受けた科目で得た GP × その科目の単位数）の合計

年度 GPA = $\frac{\text{その年度に評価を受けた科目で得た GP} \times \text{その科目の単位数の合計}}{\text{その年度に評価を受けた科目の単位数の合計}}$

③ 通算 GPA の計算式

（（各学期に評価を受けた科目で得た GP × その科目の単位数）の合計）の総和

通算 GPA = $\frac{\text{（各学期に評価を受けた科目で得た GP} \times \text{その科目の単位数）の合計の総和}}{\text{（各学期に評価を受けた科目の単位数の合計）の総和}}$

・GPA は、卒業要件となる授業科目に含まれるものを対象科目としています。以下の科目は GPA 対象科目に含まれません。

- ア) 編入学または転入学した際の単位認定科目
- イ) 本学入学前に修得した単位認定科目
- ウ) 他大学等との単位互換等で修得した科目

・履修登録した科目を放棄すると、科目の成績は「不可」となり通算 GPA に算入されます。履修を取り消す場合は、必ず履修取り消し期間中に所定の手続きを行ってください。

(9) 学修状況チェックシステム alagin(アラジン)M1 について

alaginM1 (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、成績、GPA、履修単位数などの学修状況をいつでも確認できるチェックシステムです。学内ウェブサイトの複数の箇所に alaginM1 へのリンクがあります。学外からアクセスする際は、学内ウェブサイトを経由せずに、ログインページの URL (<https://achievement.myu.ac.jp/am1>) に直接アクセスしてください。詳しくは、学内ウェブサイトにある alaginM1 利用マニュアルを参照してください。

なお、毎学期末に行われる授業評価アンケート実施期間中は、そのアンケートに回答した後に alaginM1 にアクセスできるようになっています。



9 進級について (履修規程第 12 条)

	看護学群	事業構想学群・食産業学群
全年次共通	配当年次において未修得の必修単位が通算(※) 6 単位以下であること。 (複数の年次で配当されている科目は、上級年次が配当年次) (※)通算とは、入学時からの累積	
2 年次進級要件	卒業要件単位数のうち 30 単位以上を修得していること。	
3 年次進級要件	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。 1・2年次に開講されている必修の専門教育科目の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち64単位以上を修得していること。
4 年次進級要件	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。3年次に開講されている実習(母性, 小児, 成人, 老年, 精神, 地域, 在宅の7つの領域)の単位をすべて修得していること。	卒業要件単位数のうち96単位以上を修得していること。 ※事業構想学群は、加えて3年次に開講されている卒業研究科目の単位を修得していること。

10 学類の決定・履修コースの選択について (履修規程第 13 条、第 14 条)

(1) 学類の決定

入学時に学類が決定していない学生は、1 年次末までに所定の方法により所属する学類が決定されます。学類毎に定員を設定していますので、必ずしも希望する学類に所属できるとは限りません。学類の決定方法等については、ガイダンス等で案内されます。

(2) 履修コースの選択

事業構想学群と食産業学群では、学類毎に専門性の高い科目を学べるよう履修コースを設けていますので、履修コースの届出時期までに希望するコースの届出を行ってください。

学群	学類	履修コース	届出時期
看護学群	看護学類	—	—
事業構想学群	事業プランニング学類	事業戦略コース 事業管理コース	2年次の7月末日
	地域創生学類	地域政策コース 地域科学コース	
	価値創造デザイン学類	感性情報デザインコース 生活環境デザインコース	
食産業学群	食資源開発学類	動物生産科学コース 植物生産科学コース	2年次の1月末日
	フードマネジメント学類	フードビジネスコース フードサイエンスコース	

11 転学群・転学類及びコース変更について

(1) 転学群・転学類について (学則第 22 条、転学群及び転学類に関する規程)

諸事情により転学群・転学類を希望する場合、後述するクラス担当教員等に相談してください。転学群及び転学類の選考は、原則として欠員のある場合に限り行います。また、新たな転学類等を受け入れるかどうかは、教育上の支障の有無を勘案した上で判断するので、毎年度必ず選考が行われるとは限りません。詳細は、学内ウェブサイトにある「宮城大学転学群及び転学類に関する規程」で確認してください。

(2) コース変更について (履修規程第 14 条)

選択した履修コースの変更を希望する場合は、所属する学群の学群長の許可が必要となります。手続き方法や時期等については、後述するクラス担当教員等に確認してください。



12 卒業認定・学位授与について (学則 41 条)

修業年限を満たし、各学群で定める卒業要件を満たした学生は、卒業が認定され、学位が授与されます。各学類を修了した者に授与される学位は下表のとおりです。

	学類	学位
看護学群	看護学類	学士（看護学）
事業構想学群	事業プランニング学類	学士（事業プランニング学）
	地域創生学類	学士（地域創生学）
	価値創造デザイン学類	学士（価値創造デザイン学）
食産業学群	食資源開発学類及びフードマネジメント学類	学士（食産業学）

13 学修支援について

学修や進路上、学生生活の悩みや不安などがある場合、以下にご相談ください。
 なお、非常勤講師への学修上の相談や質問は、非常勤講師の来学時に行ってください。

(1) 教員へ相談したいとき

スタートアップセミナーの担当教員が窓口となって相談を受け付けます。担当教員以外の教員も受け付けますが、業務上、各教員の都合がつかない場合もありますので、各教員へメール等で事前連絡の上、相談してください。

(2) 職員へ相談したいとき

事務局の窓口が利用できる時間帯は、平日 8:30～17:50 です。事務職員への相談や書類等の提出は、事務局窓口が利用できる時間帯で行ってください。

(3) 学生相談室、保健室について

- ・保健室：大学構内でのケガや体調不良については、保健室で対応することが可能です。
- ・学生相談室：カウンセラーが常駐し、対人関係、こころの健康、生活全般、学業・進路など、学生生活における困りごとをはじめ、様々な相談ができる場所です。費用は無料で、プライバシーは厳守されます。
- ・利用時間は学内ウェブサイトを確認してください。

(4) 合理的配慮について

合理的配慮とは、障がいや持病を有する学生に、大学での学修を進める上で必要な配慮を行い、障壁（バリア）となるものを除去することを意味します。障がいや持病の有無にかかわらず、すべての学生が、公平で平等に学修を進めることができるようにするためです。合理的配慮を希望する場合は、スチューデントサービスセンター（事務局）に相談してください。

14—その他

(1) 大学からの連絡

学内行事、集中講義などで連絡事項が発生した場合や、学生生活に関する重要なお知らせは、学内メールで周知する場合がありますので、学内メールを確認してください。

また、学内メールの他、大和キャンパスにおいては事務局前の掲示板、太白キャンパスにおいては講義棟1階の掲示板、学務管理システム(学内の場合 <https://p.campus.myu.ac.jp/portal/> 学外の場合 <https://vpn.myu.ac.jp/portal/> からログイン)等を通じて連絡を行うことがあります。登下校時には、掲示板等を確認してください。

(2) 気象状況や自然災害等による休講・試験の延期

気象状況や自然災害等により学生及び教職員の通学・通勤が困難な場合や困難になると想定される場合は、安全確保のため休講及び試験の延期措置を行います。

時間帯	気象状況	休校
午前7時の時点	仙台市又は大和町に 大雨・洪水・暴風・大雪・暴風雪のいずれかの「 <u>警報</u> 」が発令され、スチューデントサービスセンター長及び副センター長により休講及び試験の延期措置が必要と判断した場合。 (JR在来線〈東北本線・常磐線・仙山線・仙石線〉の仙台駅を含む区間の <u>運休又は運転</u> <u>混雑合わせ</u> や <u>仙台市内小中高校の休校</u> を目安として判断します。)	午前の授業 (1・2限)『休講』
午前10時の時点		午後の授業 (3～5限)『休講』
※実習、インターンシップ等学外で実施される科目の実施有無については、当該基準に準じ各担当教員(看護学実習の場合は学群長又は実習ワーキンググループ長)の判断によります。		

上記のほか、学長及びスチューデントサービスセンター長が学生の安全確保のため必要があると判断した場合学外ウェブサイト、メールなどによって周知されます。

(3) 学生保険について

学内外で教育研究活動中、実習中、通学途中、サークル活動中などに発生した傷害事故(自分自身のケガ)・賠償事故(他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりした場合の補償)に備えるため、入学時に学生保険に加入しています。詳細は、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので、参照してください。

(4) 経済支援について

授業料の納付や、減免等申請、奨学金に係るお知らせなどは、学内ウェブサイトの「学生便覧」に記載していますので参照してください。

III. 履修登録

ここでは、履修登録に係る手続きについて説明します。これらの内容の詳細は履修規程で定められているほか、学内ウェブサイトに記載しています。

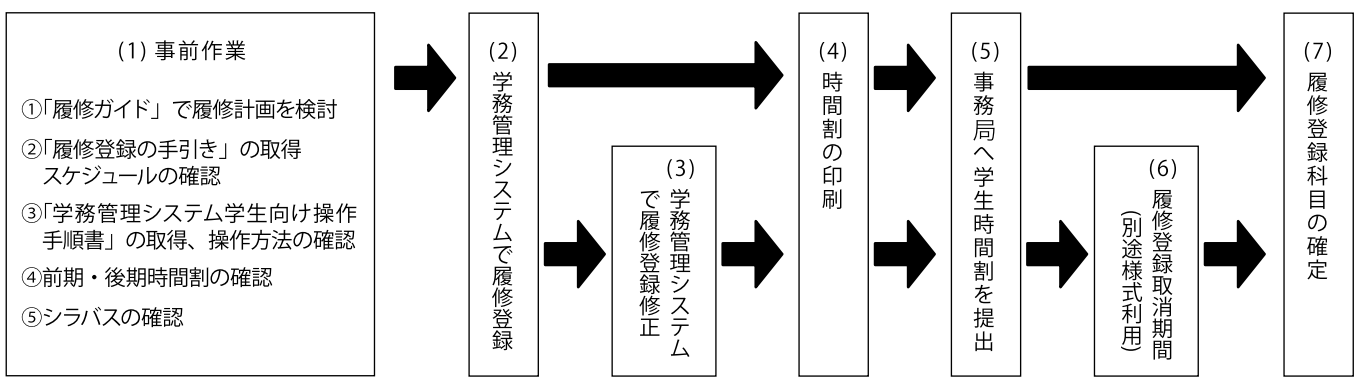
1 履修登録とは

授業に出席し、所定の単位を修得するためには、定められた期間内に履修登録を行う必要があります。計画を立て、確実に卒業要件を満たすように履修登録を行ってください。

本学では、履修登録に学務管理システムを利用するほか、履修漏れを防ぐため、事務局窓口へ提出が必要となる書類があります。詳細は、学内ウェブサイトを参照してください。

2 履修登録の手順

履修登録の手順は、下図のとおりです。



(1) 事前作業

①「履修ガイド」で履修計画を検討

履修ガイドには、各学群のカリキュラムの他、年次科目の詳細が記載されています。自分の希望する進路に合わせて、履修計画を検討してください。

②「履修登録の手引き」の取得、スケジュールの確認

学内ウェブサイトに、「履修登録の手引き」が掲載されます。履修登録に係る詳細のスケジュールなど、重要な情報が記載されていますので必ず確認してください。

③「学務管理システム学生向け操作手順書」の取得・確認

学内ウェブサイトに「学務管理システムの操作手順書」が掲載されます。基本的な操作手順が記載されていますので、確認してください。

④ 時間割の確認

学内ウェブサイトに、当該年度の前期・後期の時間割が掲載されます。同日・同じ時限に開講されている科目は同時に履修できませんので、注意してください。

⑤シラバスの確認

学務管理システムから授業科目のシラバスを確認することができます。シラバスには、授業科目の授業概要、授業計画、評価方法、ナンバリング（詳細は 19P「4 科目ナンバリング」を参照）などが簡潔に説明されていますので参考としてください。

(2) 履修登録

定められた期間内に学務管理システムで履修登録の操作をしてください。選択された内容は、学務管理システムの「時間割」で確認することができます。また、後期に開講する科目についても前期の履修登録期間に履修登録を行う必要がありますので注意してください。

(3) 履修登録修正

履修登録の内容を修正したい場合、定められた期間内であれば、学務管理システムから登録内容を修正することができます。後期科目については、後期授業開始後に同様の修正期間を設けます。

(4) 時間割の印刷

履修登録が行われたことを学生・職員が相互に確認するため、最終的な登録結果として、事務局提出用と学生控え用に時間割を2部印刷してください。印刷したものは、後日提出となります。なお、所定の期間を過ぎてからの登録内容の追加・変更は応じられませんので、注意してください。

(5) 事務局へ学生時間割を提出

印刷した時間割を事務局窓口の所定の提出BOXに提出してください。

(6) 履修登録取消期間

定められた期間内であれば、履修登録を取り消すことができます。履修登録を行った科目は、自己都合で受講を取りやめても「不可」として評価され、GPAに反映されます。履修の意思がない場合は、定められた期間内に履修登録の取り消しを行ってください。

(7) 履修登録科目の確定

履修登録に係る所定の手順を終えると、最終的な登録内容が学務管理システムの時間割で確認できます。登録内容が窓口へ提出した時間割と異なっている場合は、事務局に連絡してください。

3 履修登録上の留意点

(1) 履修登録可能な単位数の上限

本学では、履修登録できる単位数の上限を定めています。

時間帯	履修登録単位数の上限
1年次	年間49単位まで(基盤教育科目から35単位まで)
2～4年次	各年次における履修登録単位数の上限は、年間49単位まで
※ただし、以下の科目の単位数は、履修登録単位数の上限には含まれません。 ・各学群の卒業要件に含まない科目 ・春季休業日、夏季休業日及び冬季休業日に開講される集中講義等の科目 ・他大学又は短期大学から履修を許可された科目のうち、教授会が特に必要と認めた場合	

(2) 単位修得済み科目の履修登録の禁止

一度単位を修得した科目は、再度履修登録を行うことはできません。

(3) 集中講義科目の日程確認

集中講義科目を2科目以上履修する場合は、日程が重複していないかどうかを十分確認した上で履修登録してください。

(4) その他

履修登録期間中には、履修登録に係る連絡事項が伝えられますので、学務管理システム、学内メールを確認してください。

4 科目ナンバリング

(1) 科目ナンバリングとは

学びの分野や順序等を表す番号を科目に付け、教育課程の体系性をわかりやすく明示する仕組みです。授業の性格、位置づけ等を明示していますので、科目履修の際の参考としてください。

(2) 付番方法

原則として学類ごとに、科目に固定して付番しています。同一科目でも、所属学類が異なると番号が異なります。なお、授業科目の見直し等により再付番する可能性があります。本学における科目ナンバリングは次の構成とします。

$$\frac{AB}{①} - \frac{CDEF}{②} \frac{1}{③} \frac{01}{④}$$

①学群・学類コード ②学問分野コード ③配当年次 ④順序番号

※コード表は、学内ウェブサイトで見ることができます。

例) 科目名「スタートアップ・セミナー」のナンバリング FA-FRES105 は以下の内容を示します。

学群・学類コード：基盤教育群 (FA) 学問分野コード：フレッシュマンコア (FRES) 配当年次：1年次 (1)

順序番号：①～③の付番が同じ組合せとなるグループの中で5番目に位置づけ (05)

I

宮城大学カリキュラムの全体像

II

総論

III

履修登録

IV

全学共通科目ほか

V

基盤教育

IV. 全学共通科目ほか

1 コミュニティ・プランナープログラムについて

(1) コミュニティ・プランナープログラムとは

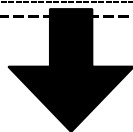
地域の歴史・文化・資源を活かしたコミュニティづくりや、地域の人々と共に課題解決ができる人材の育成を目指し、宮城大学と兵庫県立大学が連携して構築・推進している教育プログラムです。このプログラムでは、地域コミュニティの現場に触れ、自らの目で見えて・聞いて・体験し、学習することで、地域の人々と共に考えながら、地域本来の良さを活かした、これからのコミュニティづくりの提案を行える技能の習得を目指しています。

(2) 単位

必修科目は、コミュニティ・プランナー（CP）基盤科目である基盤教育科目の「地域フィールドワーク」1科目2単位、CP開講科目の「CP概論および演習」「CP実践論」「CPフィールドワーク演習」の3科目6単位。また、選択科目として、各学群既存科目である「CP関連科目」のうち2領域以上から6科目12単位以上を履修します。合計20単位以上を履修することで宮城大学・兵庫県立大学「コミュニティ・プランナー育成プログラム」の運営に関する覚書に基づき、卒業時に『コミュニティ・プランナー アソシエイト』の称号が授与されます。

〈 CPプログラム科目構成 〉

CP基盤科目（4科目8単位）+ CP関連科目（6科目12単位）= 計20単位以上



『コミュニティ・プランナー アソシエイト』称号 授与

<CP 概論および演習>

地域社会で活躍する専門家と連携したグループ演習により、現地調査の方法、ワークショップの運営、意見のまとめ方など、フィールドワークの基本的技能の習得を目指します。

<CP 実践論>

実践者・専門家の講義やフィールドワークを通じ、事例把握による疑似体験により、CPとしての知識・理解を深めます。

<CP フィールドワーク演習>

コミュニティ再生の実践的経験を通して、CPとしての職能を理解しながら様々なステークホルダーとの協働手法や地域課題解決手法の習得を目指します。

(3) プログラムの考え方および特色

①GREENの視点

持続可能（サステナブル）な地域コミュニティを構築し、維持してゆくためには、緑ある環境をベースにして、人、植物、動物、すべての生命（いのち）がつながり、関わり合うことが必要です。本プログラムでは、このような、すべての生命（いのち）のつながり、関わりを意味するものを「GREEN」と呼びます。「GREEN」は花や樹木などの植物だけでなく、「みどり色」の持つイメージそのものを指し、光り輝く緑からイメージできる生命（いのち）の輝き、人びとが集い、笑顔があふれる地域社会など、持続可能な地域社会を支える新しい視点です。

②ステークホルダーと連携したフィールドワーク

カリキュラムは主に「講義+フィールドワーク（実践）」の形式を取り、フィールドでの実践を通して講義での学びを深めていきます。また、第一線で活躍する専門家と共に学ぶことのできる実践的な科目構成となっています。自治体や企業・NPO等の地域社会のステークホルダーと連携したフィールドワークを取り入れることで、コミュニティから求められている企画力やファシリテーション能力、プレゼンテーションや実行力といった社会に貢献できる能力を育成します。

(4) 履修方法および履修手続等

①履修方法

通常の履修登録と同様に学務管理システムで行ってください。履修登録の際は、別冊で配布される「履修登録の手引き」をよく確認してください。

②履修登録単位数の上限と卒業要件単位への参入

履修登録単位数には上限があります。P19「3(1)履修登録可能な単位数の上限」を確認してください。なお、卒業要件単位に入らない科目は、履修登録単位の上限からも除外されます。

看護学群は、基盤教育科目「地域フィールドワーク」のみ卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。

事業構想学群および食産業学群は、基盤教育科目「地域フィールドワーク」と「CP概論および演習」が卒業要件単位として認められ、前期の履修登録単位数に含まれます。「CP実践論」「CPフィールドワーク演習」は卒業要件単位には入りません（地域創成学類を除く）。

③CP関連科目

CP関連科目については、各学群学類で開講している既設科目の履修となります。他学群にて開講している科目を履修する場合には、学群学類毎に履修要件が異なります。詳しくは「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」を確認してください。

※CP関連科目は、各シラバス・時間割どおりに開講されますので、別キャンパスの科目を履修する場合はキャンパス間の移動時間等に注意して履修登録を行ってください。

別表 CP関連科目(2領域以上、6科目12単位以上を修得)

領域	科目名	開講年次	単位数	開講学類	科目名	開講年次	単位数	開講学類
グリーンケア	人間発達学	1前	2	看護	行政学	3前	2	地域創生
	人間関係論	1後	2	看護	社会的共通資本	3前	2	地域創生
	ライフステージ看護学概論Ⅰ (看護学群の学生のみ履修可)	1後	2	看護	地理情報分析	3前	2	地域創生
	ライフステージ看護学概論Ⅱ (全学群の学生履修可)	2前	2	看護	地域交流論	3後	2	地域創生
	災害活動論	1後	2	看護	コミュニティ創造	3後	2	地域創生
	臨床心理学	1後	2	看護	地方自治	3後	2	地域創生
	地域看護学概論	2後	2	看護	地域福祉政策	4前	2	地域創生
	地域政策概論	2前	2	地域創生	栄養科学	3前	2	食資源開発
	地域調査法	2前	2	地域創生	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	地域資源論	2後	2	地域創生	動物福祉論	3後	1	食資源開発
	地域社会学	2後	2	地域創生	ライフステージ栄養学	4前	2	フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	地域創生	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	地域創生	計25科目			
グリーンデザイン	地域社会・産業とデザイン	1後	1	地域創生 価値創造デザイン 事業プランニング	災害の科学(水)	3前	2	地域創生 価値創造デザイン
	地域政策概論	2前	2	地域創生	災害の科学(土)	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	地域調査法	2前	2	地域創生	地域交流論	3後	2	地域創生
	地域資源論	2後	2	地域創生	コミュニティ創造	3後	2	地域創生
	地域社会学	2後	2	地域創生	地方自治	3後	2	地域創生
	地域分析学	2後	2	地域創生	景観工学	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	社会調査法	2後	2	地域創生	都市計画	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	国土・地域計画	2後	2	地域創生 価値創造デザイン	交通計画	3後	2	地域創生 価値創造デザイン
	伝統と文化	2後	2	価値創造デザイン	地区・街区計画	4前	2	地域創生 価値創造デザイン
	行政学	3前	2	地域創生	地域環境政策	4前	2	地域創生
	社会的共通資本	3前	2	地域創生	防災計画	4前	2	地域創生
	地理情報分析	3前	2	地域創生	環境科学	2後	2	食資源開発 フードマネジメント
	風土・伝統デザイン	3前	2	価値創造デザイン	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	水資源利用学	3前	2	地域創生 食資源開発	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
	都市と文化	3前	2	地域創生 価値創造デザイン	計29科目			
グリーンビジネス	公衆衛生学	1後	2	看護	社会起業論	4前	2	地域創生
	地域活性化とビジネス	1後	1	地域創生	食料・農業・農村政策	3前	2	食資源開発 フードマネジメント
	地域政策概論	2前	2	地域創生	植物性食材生産学Ⅱ(露地園芸)	3前	2	食資源開発
	地域調査法	2前	2	地域創生	植物性食材生産学Ⅲ(施設園芸)	3前	2	食資源開発
	地域資源論	2後	2	地域創生	畜産食品学	2・3後	2	食資源開発
	地域社会学	2後	2	地域創生	ローカルフードシステム論	3前	2	フードマネジメント
	地域分析学	2後	2	地域創生	食産業政策論	3後	2	フードマネジメント
	社会調査法	2後	2	地域創生	食品経済・政策論演習	3後	1	フードマネジメント
	行政学	3前	2	地域創生	食材生産経営学	3後	2	フードマネジメント
	社会的共通資本	3前	2	地域創生	食資源開発学	3後	2	食資源開発
	地理情報分析	3前	2	地域創生	食品マーケティング論	3後	2	食資源開発
	地域交流論	3後	2	地域創生	植物性食材生産実習Ⅱ	3後	1	食資源開発
	コミュニティ創造	3後	2	地域創生	付加価値動物性食材生産法	3後	2	食資源開発
	地方自治	3後	2	地域創生	食品の安全性管理	3後	2	食資源開発
	地域産業政策	4前	2	地域創生	フードコミュニケーション	4前	2	食資源開発 フードマネジメント
計30科目								

2 他学群・他学類履修，他大学等履修，入学前既修得単位の単位認定について

(1) 他学群又は他学類の履修について

他学群・他学類の授業科目の履修を希望する場合は、学長の承認を得て、60 単位を超えない範囲で単位を修得することができます。他学群・他学類として学生が申請できる授業科目は下表のとおりです。

学群	他学群・他学類の学生が申請できる授業科目の範囲
看護学群	授業形態が「講義」区分の科目
事業構想学群	科目区分「卒業研究」を除く全ての科目
食産業学群	全ての科目（ただし、科目区分「卒業研究」については、食産業学群の学生が、所属していない他学類の科目を申請できる）

(2) 単位認定に係る申請について

他学群又は他学類の授業科目の履修，他の大学又は短期大学における授業科目の履修等，大学以外の教育施設における学修，入学前の既修得単位の認定に係る申請は下表のとおりです。これらの申請が必要な場合は，事務局窓口にて，あらかじめ相談してください。

	学群	要件	履修に係る申請	単位認定に係る申請	
①	本学の他学群・他学類の授業科目を履修したいとき（他学群・他学類履修）	あらかじめ当該授業科目担当教員の確認を得ること	前期又は後期の授業科目履修登録期限前までに、 <u>承認申請</u> を行うこと	当該単位を修得した年の翌年の前期授業科目の履修登録期限日までに、 <u>在学中修得単位の認定申請</u> を行うこと ※1	あわせて60単位を超えないもの
②	在学中に、他の大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む）、高等専門学校等の専攻科等における授業科目を履修したいとき（他大学等履修）	他大学等との協議又は単位互換協定等に基づくもの	事前申請を行うこと		
③	入学する前に、大学又は短期大学において修得した単位を認定したいとき（入学前既修得単位）			入学初年度の指定された期日までに、 <u>入学前既修得単位の認定申請</u> を行うこと※1	
※1 ②、③の認定申請は、所定の申請書に加えて、以下の書類を添える必要があります。 ・成績証明書（単位を修得した大学等の発行するもの） ・申請する授業科目について、単位を修得した大学等が作成した授業科目の内容、単位制度等、単位の換算認定に必要な資料					

※なお、学都仙台単位互換ネットワークに関する協定に基づく授業科目に関する履修については、P26 に記載されています。

(3) 単位認定された授業科目の本学開講科目との振替について

②他大学等履修、③入学前既修得単位として単位認定された科目については、本学開講科目において単位を修得したものととして、申請・審査の上、振替えることができます。

本学開講科目への振替の可否は、学群教授会において、所属学群及び学類開講科目と、単位認定された科目の授業内容等を相互に比較し、その類似性により決定します。

ただし、看護学群において振替により卒業要件単位に算入することのできる授業科目は基盤教育のみとし、その上限を8単位としています。

(4) 振替できない科目の卒業要件単位数への算入について

単位認定された科目のうち、振替できない科目の卒業要件単位数への算入は下表のとおりです。なお、これらの科目について、卒業要件単位数算入の認定を希望する学生は、別途申請を行う必要がありますので、事務窓口にて、あらかじめ相談してください。

		区分(略称)	看護学群	事業構想学群	食産業学群	
留学生を除く学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	基盤教育科目に区分し3単位まで算入可能	基盤教育科目に区分し3単位、他学類科目は専門関連科目に区分し8単位、総計8単位まで算入可能	総計8単位まで算入可能
	②	他大学等履修			基盤教育科目に区分し、3単位まで算入可能	
	③	入学前既修得単位				
留学生	①	他学群・他学類履修	算入不可	算入不可	他学類科目は専門関連科目に区分し、総計8単位まで算入可能	総計8単位まで算入可能
	②	他大学等履修			算入不可	
	③	入学前既修得単位				

(5) 単位認定を受けた授業科目の成績表記について

単位認定された科目について、成績表記は下表のとおりです。なお、①については、本学の開講科目のため、成績及び科目担当教員名が明記されますが、②③については、単位が認定されたことのみ記載されます。

	区分	科目分類	科目区分	科目名称	単位数	成績評価の表記	科目担当教員名
①	他学群・他学類履修	他学群・他学類	履修した科目の区分	履修した科目の名称	履修した科目の単位数	秀・優良・可	記載
② ③	他大学等履修・入学前既修得単位	他大学等	振替した科目の区分	振替した科目の名称	振替した科目の単位数	認定	空欄
			—	履修した他大学等の授業科目名称	原則として、履修した他大学等の配当単位数		

3 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度

(1) 学都仙台単位互換ネットワーク 単位互換制度とは

学都仙台単位互換ネットワークは、この制度に参加する大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生が、他の参加校の授業科目を履修し、そこで取得した単位を在籍する大学等の単位として認定する制度です。この制度による授業科目の履修には、原則として、授業料はかかりません(放送大学の授業料を除く。実習費用等が別途かかる場合があります)。履修できる授業科目(シラバス)や受講者数、その他の条件等については、受入れ大学が決定し、募集要項に定めています。

提供される科目や出願期間は大学ごとに毎年変わりますので、詳細は、学都仙台コンソーシアム単位互換ネットワークのウェブサイト (http://www.gakuto-sendai.jp/for_s/index.html) を確認してください。

(2) 単位互換制度の申請方法

① 受講手続きの流れ

	募集要項・出願期間の確認	履修申請(出願)	履修許可・受講開始	成績連絡	卒業要件単位参入
前期	前年度3月	3月～4月	4月	10月	翌年度4月
後期	前年度3月	8月(大学により4月)	10月	3月	翌年度4月
手続きの流れ	各大学から提供科目・募集要項提示 ウェブサイトにて公開開始	ウェブサイトに出願期間提示 各大学の出願期間の1週間前までに単位互換願書を宮城大学事務局あてに提出	宮城大学事務局から履修の案内を受け取りしだい、授業の受講開始	宮城大学事務局より成績連絡	既修得単位認定の申請を宮城大学事務局に提出

② 出願資格

宮城大学に在籍する正規学生で、申請し許可を受けた方が対象です。ただし、科目によっては、女子学生に限る場合や「〇年次生以上」という受講の制限を設けている場合がありますので、科目の履修を希望する大学等の募集要項を確認してください。

なお、相手先の大学によっては、最初の受講前に事前連絡が必要になる場合がありますので、各受入れ大学のウェブサイト、募集要項で確認してください。

③ 出願期間

出願期間は、前期科目及び通年科目は4月上旬、後期科目は9月中旬で、相手先の大学によって異なります。希望する大学の出願締め切りの1週間前までに、宮城大学事務局へ④の願書を提出してください。なお、相手先の大学によっては、前期・後期科目ともに4月を出願期限としている場合があります。

④ 出願方法

履修を希望する場合は、「単位互換学生(特別聴講学生)願書」(共通様式または各校指定様式)に必要な事項を記入して、宮城大学事務局へ提出してください。その他必要書類があれば窓口でお知らせします。

⑤ 授業の履修

出願があってから、相手先の大学で審査が行われ、受講の可否が決定します。受入校からの「受入決定通知」をもって履修決定となりますが、それ以前でも講義を聴講することは可能です。受講が決定したら宮城大学事務局よりお知らせします。

⑥ 成績連絡

履修した科目の成績は、宮城大学を通じてお知らせします。相手先大学から連絡があり次第、メール又は学内ウェブサイトでお知らせしますので、宮城大学事務局窓口で受け取ってください。

⑦ 単位の認定及び卒業要件単位への参入

⑥で成績が通知された場合、既定の範囲内で単位の認定及び卒業要件単位に算入することができます。[詳細は、「宮城大学他学群・他学類履修及び他大学等履修に関する実施要綱」に定めていますので、学内ウェブサイトを確認して下さい。]

4 学外研修・グローバルインターンシップ

(1) 学外研修・グローバルインターンシップとは

国内・海外を問わず学外における一定期間の計画的なプログラムに参加し、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「学外研修」の単位を修得することができます。また、主に海外における一定期間の研修を通して、グローバル人材として必要なスキル、社会で必要なコミュニケーション能力を身につけ、一定の成果を得られた場合、全学共通科目の「グローバルインターンシップ」の単位を修得することができます。

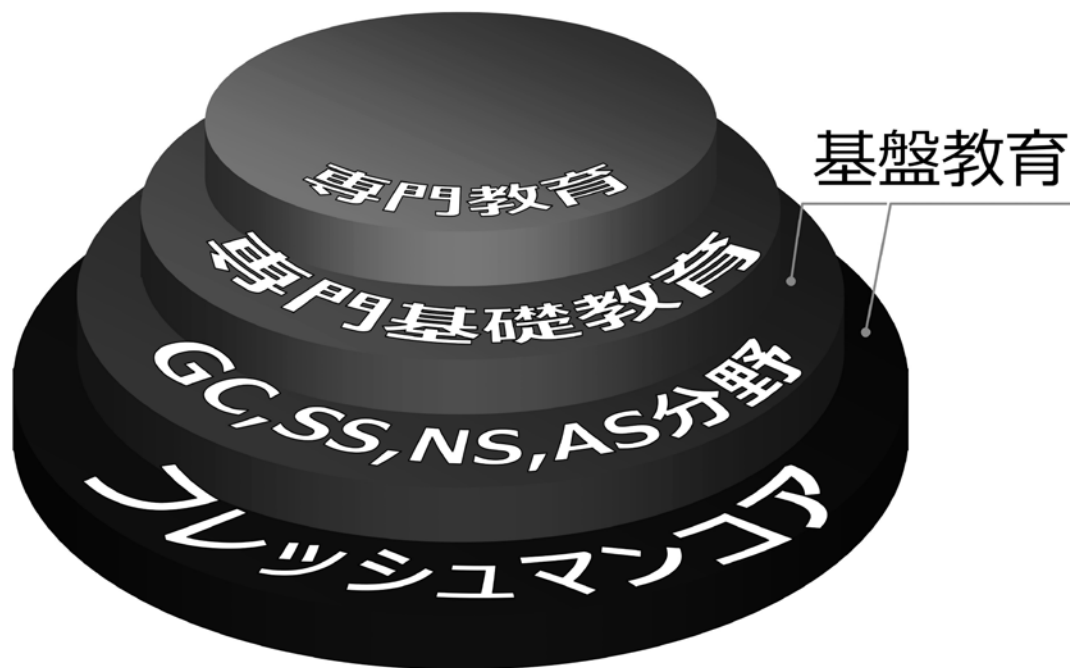
(2) 科目の履修方法

学外研修、グローバルインターンシップの2科目とも、学内選考のうえで参加が決定します。そのため、学務管理システムでの履修登録は行わず、国際交流・留学生センター等から案内される募集手続きに従って応募します。詳細は国際交流・留学生センター等で配布する募集要項を確認してください。なお、看護学群は実習期間により参加できる日程に限られる場合がありますので、実習日程を確認の上で応募してください。

V. 基盤教育

皆さんは大学での学びをどのようにお考えでしょうか。これまでの皆さんの学びの方法は、文法であれ、法則であれ、情報活用のスキルであれ、あるいは歴史・文化・社会についての知識であれ、教えられたことを覚える、といったものではなかったでしょうか。しかし、大学での学びは、教えられたことを覚えるだけでは十分とはいえません。大学での学びの中心は、教えられたことを踏まえながらも、自ら考え、課題を見出し、その解決策を探求していくことにあります。そのためには、自ら調べ、考えを深めることのみならず、他者と意見を交わし、自らとは異なる見解や文化のなかに問題解決の可能性を探ることも必要となります。学問に触れ、地域とかかわり、他者と交わるなかで、身近な地域に、多様な社会に、そして広い世界のなかに自らを位置付けることによって、将来の展望を持つことができるようになります。宮城大学は、このような考えのもと、大学での学びが生涯の学びの糧となることを願っています。

その意味では、皆さんの大学での学びが充実したものとなるのが肝要です。そして、そのための最初の働きかけが宮城大学の基盤教育です。基盤教育では、3つの力（知）を養います。1つ目は、基礎的な言語・数量・情報を使いこなす力（技法知）。2つ目は、学知を理解し、検討し、新たな視点を見出す力（学問知）。そして3つ目は、自己と他者への理解を深め、他者と協働しながら目標を達成する力（実践知）。これら3つの力（知）の修得を通じて、人間力の向上、生涯にわたって学び続ける力の涵養、そして明日の姿を見通す力の育成を目指します。



上の図に示すように、基盤教育は、フレッシュマンコア（FC）、グローバルコミュニケーション分野（GC）、ソーシャルサイエンス分野（SS）、ナチュラルサイエンス分野（NS）、そしてアートサイエンス分野（AS）の5つの領域から構成されています。各領域の概容については、ページをあらためて、ご紹介いたします。

基盤教育の教育目標

	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー
		宮城大学共通の教育基盤として、人間力を高めるとともに、広く深く学び続ける力を養成し、将来にわたって明日の姿を見通す力を身につけるための技法知・学問知・実践知を修得するための教育課程を編成する。その中核として、全ての学生が必ず身につけるべき力を養成するための科目群「フレッシュマンコア」を置く。
1 知識・技術	諸領域の学問分野における基本的知識を持ち、各学問分野に特有の考え方を理解し、その考え方を様々な場面で適用できる技術を持つ。	諸領域の学問分野における幅広い分野の知識と技術を教授するため、学問領域を社会・歴史・文化を学ぶ「ソーシャルサイエンス」、人間と自然科学を学ぶ「ナチュラサイエンス」、芸術を学ぶ「アートサイエンス」に分類し、それぞれの領域における基本的知識・技術を教授するための科目群を構成する。また学びの全体を俯瞰するための科目を置く(看護学群を除く)。 学生が修得した知識・技術を、実践的に応用できる力に結びつける効果的な教育方法を採用する。
2 判断思考力	物事を多面的に考えながら、科学的根拠に基づく論理的な思考と判断ができる。	自らが修得した知識・技術を基盤に、科学的根拠に基づく論理的な思考力・判断力を養成するため、「フレッシュマンコア」の中に少人数演習およびフィールドワーク等を置き、実践的な課題に取り組む教育を行う。
3 表現	自分の意見を口頭表現や文章表現によって的確に伝えることができる。	自らの意見や調査分析結果を文章や口頭で表現し、それらを伝えるコミュニケーション力を養成するため、少人数演習科目において、表現技術とコミュニケーションに関する実践的な教育を行う。 グローバルなコミュニケーション力と表現力を養成するために、「グローバルコミュニケーション」科目群を設け、世界共通語としての英語をフレッシュマンコアとして位置づけるとともに、その発展科目を置く。また、中国語、韓国語、ベトナム語を外国語科目として置く。
4 主体性	自己を社会の中に位置づけ、学びを自分自身で意味づけながら自ら学び続けることができる。	自らの将来を見据え、主体的に学ぶ能力を養成するために、「フレッシュマンコア」の中に、大学での主体的な学びを理解するための科目、自らの将来像を考えるためのキャリアデザイン科目を設ける。また、演習科目においても学びの主体性を重視した教育を実施し、自らが学びにつづけるための力を養成する。
5 協働性	他者との適切なコミュニケーションのあり方を理解し、他者と協力して学ぶ活動ができる。	他者との協働性とコミュニケーション力を養成するため、「フレッシュマンコア」の中で少人数演習やフィールドワーク等の協働的な活動を取り入れた教育を実施する。

1 フレッシュマンコア

(1) フレッシュマンコア (FC) とは

宮城大学が重視する基盤教育、その中軸となる全学共通の必修科目群を「フレッシュマンコア」といいます。フレッシュマンコアは、技法知、学問知、実践知の修得に向けた基礎トレーニングの場です。そこではまず専門科目を主体的に学ぶための礎を築きます。また、少人数のグループで課題に取り組み、仲間とともに学びながら、多様な意見から集団で答えを導き出す能力を養っていきます。さらに、地域や社会の一員として自らの果たすべき役割についても考えを深めていきます。これら一連の営みを通じて、一人ひとりの生涯の学びの基盤を確かなものにしていきます。

〈フレッシュマンコア〉

「明日の姿を見通す力」を身につける宮城大学の基盤教育スタンダード



人間力+学び続ける力



明日の姿を見通す力

(2) フレッシュマンコアの基幹科目

フレッシュマンコアの中でも、以下の7科目(看護学群は4科目)を「フレッシュマンコア基幹科目」といいます。いうなれば、3つの力(知)のコアのコアに触れる機会となるでしょう。

- ① **スタートアップ・セミナー** ……▶ 25人のクラス単位で、コミュニケーションやディスカッションのスキルを身につけるとともに、自分の考えをプレゼンテーションやライティングの形で表現する方法を学びます。
- ② **アカデミック・セミナー** ……▶ スタートアップ・セミナーでの学びを基にして、科学的に思考し説明する方法を学びます。他者と協働してアイデアを出し合いながら、自らの表現力を向上させる能力の育成を目指します。
- ③ **社会の中で生きる** ……▶ 社会の一員として、幸福・正義・公正・人権などの観点から、社会がどのように構成されているのかを知り、自分が社会にどのように関わるべきかを、集団討議も交えて考えていきます。
- ④ **地域フィールドワーク** ……▶ 地域を歩き、自らのミッションを問う、地域に貢献できる人材の持つべき素養として、地域(東北、宮城等)の自然・歴史・文化等を学びながら、地域の多様な人々や地域が抱える課題に目を向け、自らの「果たすべき役割」を考えていきます。
- ⑤ **宮城大学の知の体系(事業構想学群・食産業学群のみ)** ……▶ 大学での学びを概観し、宮城大学と3学群のミッション、学修内容等を理解することで、4年間の学修と卒業後の姿をイメージします。
- ⑥ **大学での学び入門(事業構想学群・食産業学群のみ)** ……▶ 大学での学び方を身につけることを目的に、学ぶことの意義を考え、また学ぶために必要な学修方法について学びます。
- ⑦ **キャリアデザインI(事業構想学群・食産業学群のみ)** ……▶ 学類選択や卒業後の進路を見据えて、「自分は何者で、これからどのような道を進んでいきたいのか」を考えます。過去の自分に肯定的な意味付けをし、未来の自分をデザインする方法を学びます。

フレッシュマンコアでは P33 に記載されている基幹科目のほかにも、必修科目として次の科目を配置しています。

- ・ English Reading Skills I / English Reading Skills II / English for Academic Purposes I
English Self-Expression I / English Self-Expression II / English Self-Expression III …… ▶世界中の社会や技術発展について書かれたテキストやオンライン教材を使用し、読解の能力を強化する一方、スピーキングやライティングを通し、表現方法を学修します。また、英語の教材を通して、様々な視点や異文化理解を身に付けることを目指します。
- ・ データサイエンス入門 …… ▶身近な標本データに着目し、その種類の違いを理解し、適した処理法やグラフ・表による整理・表現法を、PC（パーソナルコンピュータ）を用いて学びます。またこれらを通じて、標本抽出や実験等の意義と必要性を理解し、標本から母集団の特徴を推測する基礎的な考え方を修得します。
- ・ 情報化社会と技術 …… ▶コンピュータおよび情報ネットワークの基礎的な構造と特徴を理解し、適切に活用する方法を身に付けます。特に、情報収集や情報分析などを行いながら、情報を活用しコミュニケーションを適切に図る技術を修得します。

2 基盤教育における4つの科目分野

基盤教育では「フレッシュマンコア」のほかに、以下の4つの科目分野を設けています。ここでは、各学類の専門科目をよりよく理解できるよう、3つの力（知）に磨きをかけます。

(1) グローバルコミュニケーション分野（GC）

English for Academic PurposesⅡ	Extensive Listening	Practical English
中国語Ⅰ	中国語Ⅱ	
韓国語Ⅰ	韓国語Ⅱ	
ベトナム語Ⅰ	ベトナム語Ⅱ	
Global StudiesⅠ	Global StudiesⅡ	
Intercultural Communication		

(2) ソーシャルサイエンス分野（SS）

日本の歴史と文化	世界の歴史と文化	東北の歴史と文化
現代社会と哲学	人と宗教	心理学
現代社会の諸相	憲法	社会と経済

(3) ナチュラルサイエンス分野（NS）

数理科学	生命科学	環境科学入門
地球と宇宙	数学概論	物理概論
化学概論	生物概論	基礎統計学

(4) アートサイエンス分野（AS）

音楽	美術	健康科学
スポーツ科学	スポーツ実技	体を動かす楽しみ
アートサイエンス概論（※）	総合芸術（※）	

また、上記(1)～(4)以外にも「全学自由ゼミ」(※)を開講します。

※「アートサイエンス概論」「総合芸術」「全学自由ゼミ」は看護学群では開講しない科目なので、看護学群の学生が履修を希望する場合は、他学群・他学類履修制度により履修してください。

3 留学生対象科目

留学生の皆さんは、下表の基盤教育科目が必修となります。

また、記載されている英語科目（*）の中から4年間で2単位分の授業を取る必要があります。

科目	看護学群	事業構想学群	食産業学群
宮城大学の知の体系	開講なし	○	○
大学での学び入門	開講なし	○	○
社会の中で生きる	○	○	○
キャリアデザインI	開講なし	○	○
スタートアップ・セミナー	○	○	○
アカデミック・セミナー	○	○	○
地域フィールドワーク	○	○	○
情報化社会と技術	○	○	○
データサイエンス入門	○	○	○
* English Reading Skills I	6科目から 2単位（2科目） 以上選択	6科目から 2単位（2科目） 以上選択	6科目から 2単位（2科目） 以上選択
* English Self-Expression I			
* English Reading Skills II			
* English Self-Expression II			
* English for Academic Purposes I			
* English Self-Expression III			
化学概論	選択	選択	○
生物概論	選択	選択	○
基礎統計学	選択	○	○
日本語I	○	○	○
日本語II	○	○	○
日本語III	○	○	○
日本事情I	○	○	○
日本事情II	○	○	○

4 教育課程の一覧

基盤教育を含む教育課程の一覧は、「VI学群」の章の科目配当表に記載しています。学群・学類毎に開講科目、必修・選択、分野毎の卒業要件単位が異なりますので、確認のうえ計画的に履修してください。

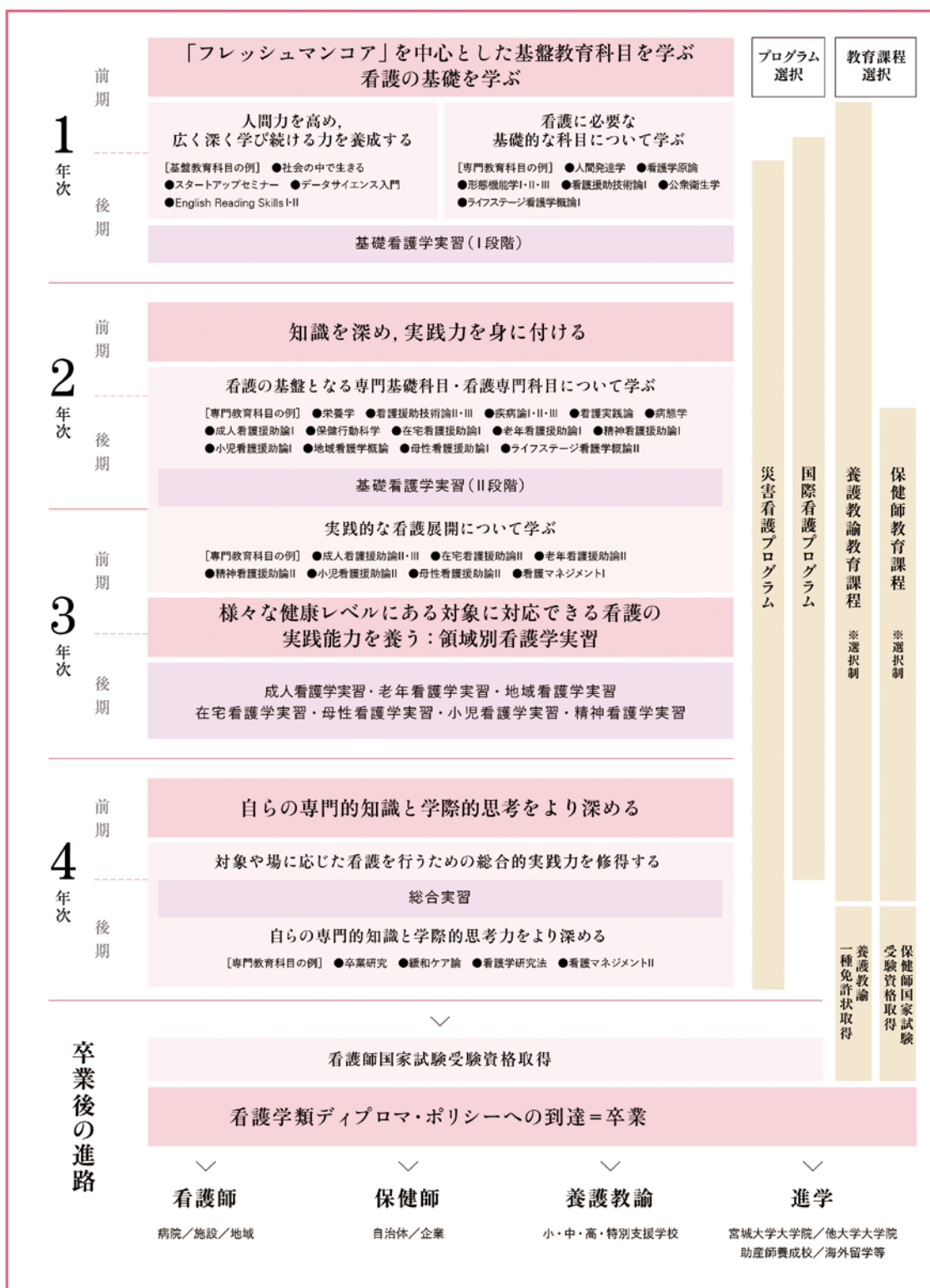
VI. 看護学群

1 看護学群看護学類について

(1) カリキュラムの特徴

看護学類では、1年次に「フレッシュマンコア」を中心とした基盤教育科目と、看護の基礎となる専門教育科目を学びます。2年次から3年次にかけて、講義やグループ学習、演習・実習により、専門教育科目の知識を深め、基礎的な看護の実践能力を身につけます。3年次後期には、領域別看護学実習を通して、様々な健康レベルにある対象に対応できる看護の実践能力を養います。4年次には、病院や地域をフィールドに総合実習や卒業研究に取り組み、自らの専門的知識と学際的思考をより深めます。さらに学びを深めるため、災害看護プログラムや国際看護プログラムなど目的に沿って選択します。また、保健師教育課程、養護教諭教育課程を選択し、将来目指すべき看護職像に向けて学修します。

看護学群での学び



(2) 看護学類の教育目標

	ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー
学群共通	看護学群では、以下の要件を満たした学生に学士（看護学）の学位を授与する。	看護学群看護学類では、「基盤教育科目」と並行して、看護学の基盤となる知識・技術を身につける「専門基礎科目」と看護学の専門性を深め、広げる「専門科目」を学年進行に沿って体系的に配置する。看護専門職としての共通基盤を形成する看護師教育課程と共に、看護学の専門性を広げる保健師教育課程ならびに養護教諭教育課程を置く。
1 知識・技術	対象者のニーズに即したケアを創造的に実践するために必要となる基本的な知識を理解し、根拠に基づいた技術を修得している。	<p>基盤教育科目での学修に基づき、看護学の基盤となる関連科学や看護の各専門分野における知識と技術を身につける科目を配置し、実習室での演習や見学実習等を取り入れた実践的な教育を行う。</p> <p>専門基礎科目として、看護の対象者である人の心身の発達過程や人体の構造・機能について学ぶ科目、人々の健康を守る上で必要となるさまざまな病気の成り立ちや症状・病変の特徴と治療や回復過程および、疾病の予防と健康の維持・増進について学ぶ科目を置く。</p> <p>専門科目として、看護学の基礎となる知識と概念、看護が行われる場や看護を提供するシステム等について学ぶ科目や、対象者のニーズを充足する上で必要となる基本的な援助技術を身につける科目、さらにさまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考に基づく判断と根拠に基づいた援助技術を身につける科目を置く。</p>
2 思考力・判断力	人の生命と活動に関する事象を客観的に捉え、科学的思考に基づいた判断ができる。	<p>講義科目と演習科目ならびに実習科目を連動させ、人々の健康に関わる課題を科学的思考過程を経て明確化し、課題解決につなげる教育を行う。</p> <p>専門基礎科目として、医療における倫理的思考、情報の収集や分析、伝達等に関係する基本的な性質や特徴を理解し、問題解決手法の基礎等について学ぶ科目を置く。</p> <p>専門科目として、さまざまな発達段階や健康レベルにある対象者のニーズを把握し、科学的思考による判断と根拠に基づいた技術を通して、ニーズに即したケアを展開する基礎的能力を身につける科目を置く。</p>
3 表現	豊かな人間関係の形成に向けて、人に対する深い洞察と倫理観に基づいた思考・判断過程を表現できる。	<p>グループ学習を取り入れ、ディスカッションや実習室での演習、実演、実習等を通して人との関係づくりについて体験的に学び合う教育を行う。</p> <p>専門基礎科目として、看護の対象となる人と良好な関係性を築きながら看護を实践する上で必要な倫理観や洞察力、コミュニケーション能力等を養う科目を置く。</p> <p>専門科目として、個人や家族、集団と関わり、援助を实践する過程において必要となる基本的なアプローチの方法や、振り返りを通して自らの援助技術を高める方法等について学ぶ科目を置く。</p>
4 主体性	人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	<p>看護専門職を目指す上で基盤となる科目とともに、幅広い視野から看護を学ぶ科目を配置する。学修過程を振り返る機会を通して、看護専門職として目指す方向性の選択を支援する教育を行う。最終年次においては、個々の学生が関心を持った看護専門領域や課題を選択して実習や研究に取り組み、看護専門職として主体的に学び続けるための基本的態度を養う教育を行う。</p> <p>専門科目として、人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けた看護を主体的に展開する総合的実践力を身につけるための科目や、看護現象を科学的に分析し、看護実践の向上を目指す研究的態度を身につけるための科目を置く。</p>
5 協働性	ヘルスケアチームの一員として、多様な人々と連携・協働することができる。	<p>講義により基礎的な知識や態度を身につけ、演習や実習での多様な人々とのコミュニケーションや関わりを通して、看護専門職として、人や地域社会が抱える健康課題を解決するための基本的な態度を養う教育を行う。</p> <p>専門科目として、地域のケアシステム、関係職種による連携・協働、社会資源の活用を通して、地域療養を支援する実践能力を身につける科目や、質の高い看護を組織的に提供するためのマネジメントやチーム医療における看護専門職の役割、医療者間の協働とコミュニケーションについて学ぶ科目を置く。</p>

(3) 看護学類のカリキュラムマップ

		看護学類のDP				
		(1)知識・技術	(2)思考力・判断力	(3)表現	(4)主体性	(5)協働性
		対象者のニーズに即したケアを創造的に実践するために必要となる基本的な知識を理解し、根拠に基づいた技術を修得している。	人の生命と活動に関する事象を客観的に捉え、科学的思考に基づいた判断ができる。	豊かな人間関係の形成に向けて、人に対する深い洞察と倫理観に基づいた思考・判断過程を表現できる。	人や地域社会が抱える健康課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができる。	ヘルスケアチームの一員として、多様な人々と連携・協働することができる。
4年次	科目配当年次	<ul style="list-style-type: none"> ☆教育の方法 ☆特別支援教育 			<ul style="list-style-type: none"> ☆看護実習 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教職実践演習(看護教諭)
			<ul style="list-style-type: none"> ＜公衆衛生看護マネジメント＞ ＜公衆衛生看護活動論Ⅱ＞ ＜公衆衛生看護活動論Ⅰ＞ ●緩和ケア論 ＜疫学Ⅱ＞ ＜代替療法＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ●看護マネジメントⅡ ＜公衆衛生看護活動論演習Ⅱ＞ ＜公衆衛生看護活動論演習Ⅰ＞ ●総合実習 (基礎・母性・小児・成人・老年・精神・在宅・地域・看護管理・学校看護) 	<ul style="list-style-type: none"> ●看護学研究法 ●卒業研究 (国際比較看護論) ＜公衆衛生看護学実習＞ ●総合実習 (基礎・母性・小児・成人・老年・精神・在宅・地域・看護管理・学校看護) ＜応用看護情報学＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ＜災害看護支援論＞ ＜救急・災害看護論＞
3年次		<ul style="list-style-type: none"> ☆道德、特別活動及び総合的な学習と生徒指導 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教職論 		<ul style="list-style-type: none"> ☆健康相談活動 	
		<ul style="list-style-type: none"> ●成人看護援助論Ⅲ ●成人看護援助論Ⅱ ●母性看護援助論Ⅱ ＜公衆衛生看護援助論＞ ＜保健医療福祉行政論＞ ＜リハビリテーション学＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ●看護マネジメントⅠ ●在宅看護援助論Ⅱ ●地域看護援助論 	<ul style="list-style-type: none"> ●母性看護学実習 ●老年看護学実習 ●在宅看護学実習 ●精神看護援助論Ⅱ ●老年看護援助論Ⅱ ●小児看護援助論Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ●小児看護学実習 ●精神看護学実習 ＜実践看護英語演習＞ 	
2年次		<ul style="list-style-type: none"> ☆教育相談の基礎と方法 ☆教育心理学・教育学概論 ☆看護概説 	<ul style="list-style-type: none"> ☆教育課程論 			
		<ul style="list-style-type: none"> ●在宅看護援助論Ⅰ ●精神看護援助論Ⅰ ●母性看護援助論Ⅰ ●成人看護援助論Ⅰ ●地域看護学概論 ●ライフステージ看護学概論Ⅱ ●看護援助技術論Ⅲ (治療看護論) ＜学校保健論＞ ●病態学 ●疾病論Ⅲ (保健行動科学) ●疫学Ⅰ ●疾病論Ⅱ (家族社会学) ●栄養学 ●疾病論Ⅰ (社会福祉学) ＜基礎教育科目＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎看護学実習(第Ⅱ段階) ●老年看護援助論Ⅰ ●小児看護援助論Ⅰ ●看護実践論 ●看護援助技術論Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ●家族看護論 		
1年次			<ul style="list-style-type: none"> ●基礎看護学実習(第Ⅰ段階) 			
		<ul style="list-style-type: none"> ●ライフステージ看護学概論Ⅰ ●看護援助技術論Ⅰ ●看護学原論 ●看護技術論 (災害活動論) ●薬理学 (臨床心理学) ●公衆衛生学 ●人間関係論 ●形態機能学Ⅲ ●形態機能学Ⅱ ●形態機能学Ⅰ ●人間発達学 ＜憲法＞(基礎教育科目) ◎(生物概論)◎(化学概論) ●English Reading Skills Ⅱ ●English Reading Skills Ⅰ ●情報化社会と技術 ●データサイエンス入門 	<ul style="list-style-type: none"> ●医療倫理学 	<ul style="list-style-type: none"> ●看護情報学Ⅰ ●English for Academic Purposes Ⅰ ●English Self-Expression Ⅲ 	<ul style="list-style-type: none"> ＜看護情報学Ⅱ＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域フィールドワーク

●:必修科目 ◎:選択推奨科目 ():選択科目 保健師:資格取得に必修 看護教諭:資格取得に必修 保健師・看護教諭:両方の資格取得に必修

1 看護学類について
2 看護学類の科目配当
3 卒業に必要な単位数及び卒業要件
4 教育課程の特色
5 看護師教育課程
6 保健師教育課程
7 看護教諭教育課程
8 履修での留意事項等
9 履修モデル

(4) 看護学類の4年間の学びの流れ

		1年次		2年次			
		前期	後期	前期	後期		
学修の流れ	教育課程	看護学類の科目配当					
		基礎教育科目					
		基礎看護学実習Ⅰ 2月下旬～3月上旬 1週間		基礎看護学実習Ⅱ 8月下旬～9月上旬 2週間			
		保健師課程					
	保健師課程	保健					
	養護教諭課程	養護教諭一種免許状取得に必修の科目履修					
プログラム	国際看護プログラム	※計画的に関連科目履修・主体的な活					
	災害看護プログラム	※計画					
キャリア開発	キャリア開発教育	キャリアガイダンス①		キャリアガイダンス②			

*1:その年によって、変更になる場合もあります。

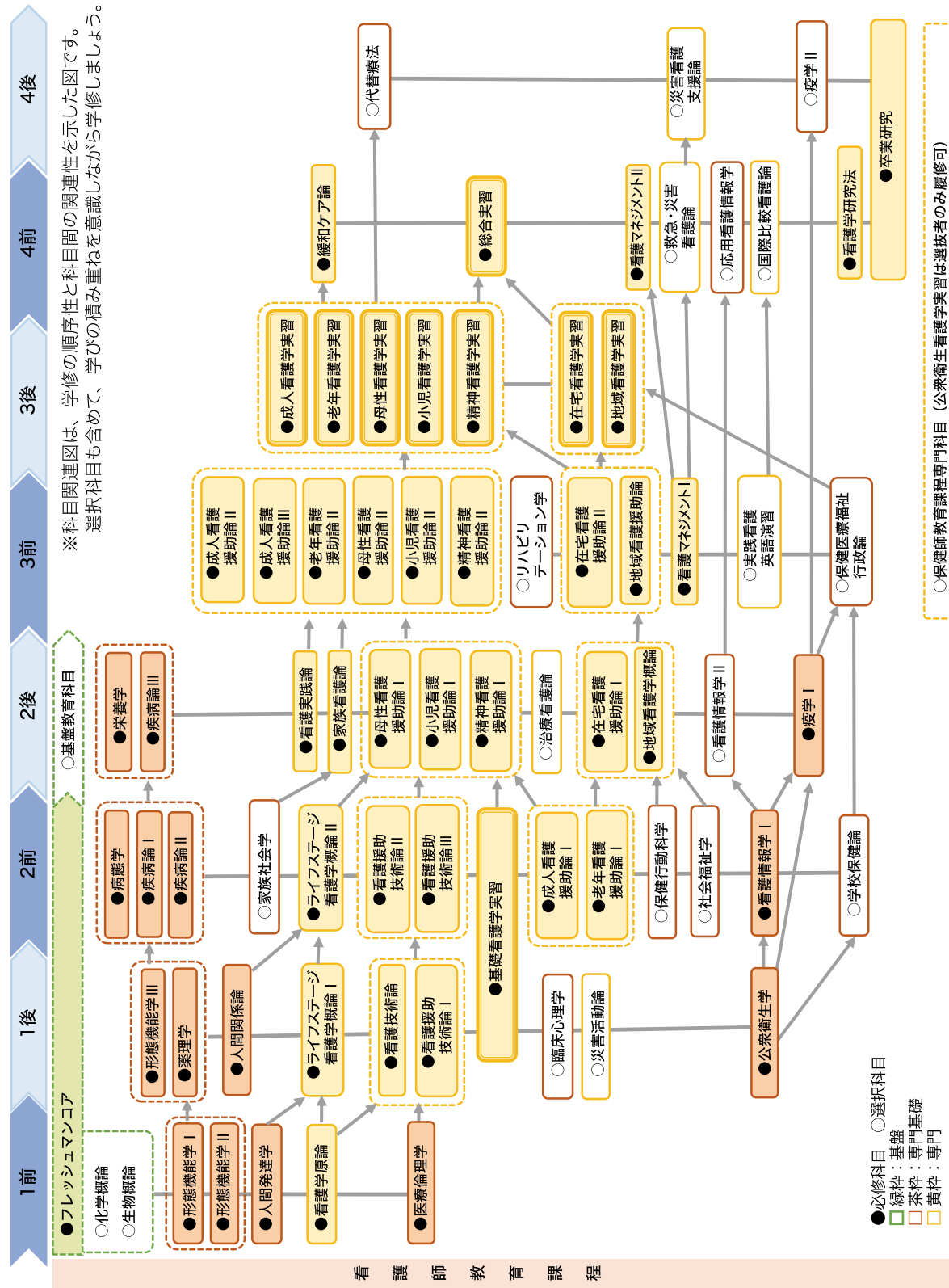
1 看護学類について
2 看護学類の科目配当
3 卒業に必要な単位数及び卒業要件
4 教育課程の特色
5 看護師教育課程
6 保健師教育課程
7 養護教諭教育課程
8 履修での留意事項等
9 履修モデル

3年次				4年次			
前期		後期		前期		後期	
----->							
専門基礎科目							
専門科目		領域別看護学実習 9月上旬～3月上旬		総合実習 5月下旬～6月上旬		卒業研究	
師国家試験受験資格に必修の科目履修				公衆衛生看護学実習履修者決定		公衆衛生看護学実習 8月下旬～9月中旬	
				養護実習履修者決定		養護実習 8月下旬～9月中旬	
動への取り組み							
的に関連科目履修・主体的な活動への取り組み							
		キャリアガイダンス③					
医療機関等研究セミナー				医療機関等研究セミナー			
				医療機関インターンシップ参加			
				キャリア開発室・進路相談員による支援			
看護師・保健師国家試験受験対策 (国家試験対策ガイダンス・模擬試験・模擬試験解説会・直前講座)							

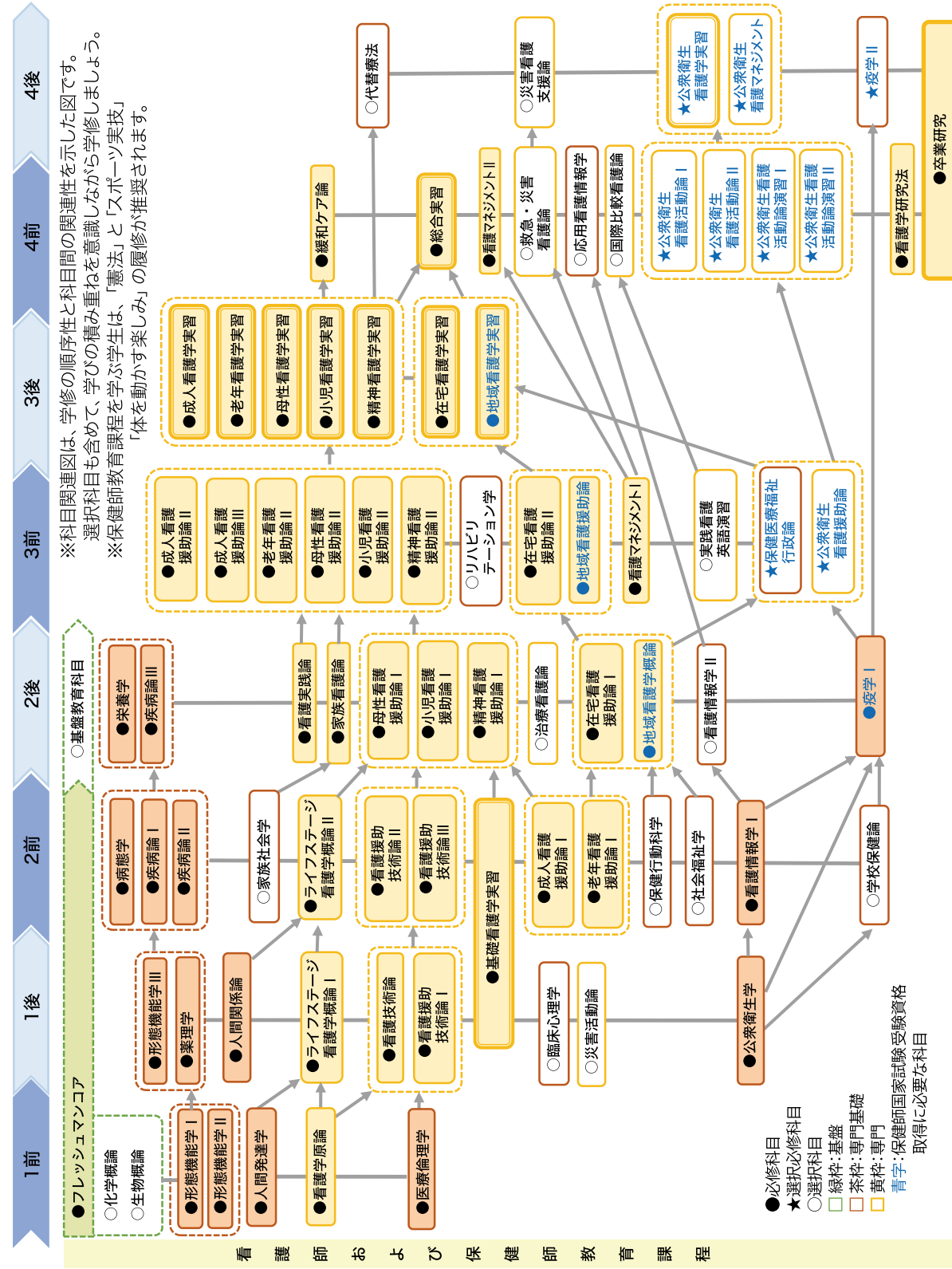
(5) 看護学類の科目関連図

科目関連図は、学修の順序性と科目間の関連性を示した図です。矢印が学修の順序性を示し、縦の線が科目間の関連を示します。看護学類の専門基礎科目と専門科目は、すべて関連しています。各自が選択する教育課程に応じて、学修目的に合わせて選択科目を履修します。それぞれの開講時期に学修する科目を関連づけて、学びの積み重ねを意識しながら学修しましょう。

① 看護学類科目関連図（看護師教育課程）



②看護学類科目関連図(保健師教育課程)



2 看護学類の科目配当

(1) 看護師教育課程科目配当表

科目区分			1 年次					2 年次						
			前期			後期		前期			後期			
			履修	科目名	単位数	履修	科目名	単位数	履修	科目名	単位数	履修	科目名	単位数
基盤教育科目	FC	必修	● 社会の中で生きる	1	● アカデミック・セミナー	2	留學生は11単位必修							
			● スタートアップ・セミナー	2	● 情報化社会と技術	2								
	GC	選択	● 地域フィールドワーク	2	● English Reading Skills I	1	● English Reading Skills II	1	留學生は2単位以上選択必修					
			● テータサイエンス入門	2	● English Self-Expression I	1	● English Self-Expression II	1		● English for Academic Purposes I	1			
			●国 English Reading Skills I	1	●国 English Self-Expression I	1	●国 English Self-Expression II	1	●国 English Self-Expression III	1	●国 English for Academic Purposes II	1		
			●国 Intercultural Communication	2	Global Studies I	2	Global Studies II	2	Practical English	1	English for Academic Purposes II	1	Extensive Listening	1
			中国語 I	1	中国語 II	1								
			韓国語 I	1	韓国語 II	1								
	SS	選択	日本の歴史と文化	2	世界の歴史と文化	2								
			現代社会と哲学	2	東北の歴史と文化	2								
NS	選択	人と宗教	2	現代社会の諸相	2									
		心理学	2	憲法	2									
		数理科学	2	環境科学入門	2									
		生命科学	2	地球と宇宙	2									
AS	選択	数学概論	2	基礎統計学	2									
		物理概論	2											
留學生	選択	○ 化学概論	2											
		○ 生物概論	2											
留學生	選択	音楽	2	美術	2									
		健康科学	2											
留學生	選択	スポーツ科学	1	体を動かす楽しみ	1									
		スポーツ実技	1											
留學生	選択	日本語 I	1	日本語 II	1	日本語 III	1	日本語 IV	1					
		日本語事情 I	2	日本語事情 II	2									
全学共通科目			産学連携講座 I		1	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2	コミュニティ・プランナー実践論	2					
全学共通科目			産学連携講座 II		1	国○ グローバルインターンシップ	2	国○ 学外研修	2					
専門教育科目	専門基礎科目	必修	● 人間発達学	2	● 人間関係論	2	● 病態学	2	● 栄養学	2				
			● 医療倫理学	2	● 形態機能学 III	1	● 疾病論 I	1	● 疫学 I	1				
	専門基礎科目	選択	● 形態機能学 I	1	● 薬理学	2	● 疾病論 II	1	● 疾病論 III	1				
			● 形態機能学 II	1	● 公衆衛生学	2	● 看護情報学 I	1						
専門科目	必修	各自の学修目的・目標に合わせて履修			臨床心理学	2	保健行動科学	2	看護情報学 II	1				
		専門科目	必修	● 看護学原論	2	● ライフステージ看護学概論 I	2	● ライフステージ看護学概論 II	2	● 看護実践論	2			
				● 看護技術論	2	● 看護援助技術論 I	1	● 看護援助技術論 II	1	● 地域看護学概論	2			
専門科目	選択	深めたい専門知識・技術に合わせて履修			基礎看護学実習	3	● 看護援助技術論 III	1	● 家族看護論	2				
		● 看護援助技術論 I	1	● 成人看護援助論 I	2	● 成人看護援助論 II	2	● 母性看護援助論 I	2	● 母性看護援助論 II	2			
専門科目	選択	深めたい専門知識・技術に合わせて履修			災・災害活動論	2	● 老年看護援助論 I	2	● 小児看護援助論 I	2				
		● 在宅看護援助論 I	2			● 精神看護援助論 I	2	● 在宅看護援助論 II	2	● 在宅看護援助論 III	2			
養護教諭教育課程 (卒業要件外)						教育学概論	2	教育課程論	2					
養護教諭教育課程 (卒業要件外)						教育心理学	2	教育相談の基礎と方法	2					
養護教諭教育課程 (卒業要件外)								養護概説	2					
履修条件	必修単位数	基盤: 15単位 専門基礎・専門: 20単位					基盤: 2単位 専門基礎・専門: 35単位							
	選択必修単位数						基盤教育科目: 8単位							
	履修単位数の上限	49単位 (基盤教育科目35単位)					49単位							

2 看護学類の科目配当

(2) 保健師教育課程科目配当表

科目区分			1 年次				2 年次				
			前期		後期		前期		後期		
			履修 科目名	単 位	履修 科目名	単 位	履修 科目名	単 位	履修 科目名	単 位	
基盤教育科目	FC	必修	● 社会の中で生きる	1	● アカデミック・セミナー	2	留学生は11単位必修				
			● スタートアップ・セミナー	2							
			● 地域フィールドワーク	2	● 情報化社会と技術	2					
			● データサイエンス入門	2	● 情報化社会と技術	2					
			●国 English Reading Skills I	1	●国 English Reading Skills II	1	●国 English for Academic Purposes I	1	留学生は2単位以上 選択必修		
			●国 English Self-Expression I	1	●国 English Self-Expression II	1	●国 English Self-Expression III	1			
			●国 Intercultural Communication	2					●国 English for Academic Purposes II	1	
		GC		Global Studies I	2	Global Studies II	2	Practical English	1	Extensive Listening	1
				中国語 I	1	中国語 II	1				
				韓国語 I	1	韓国語 II	1				
			ベトナム語 I	1	ベトナム語 II	1					
	SS	選択	日本の歴史と文化	2	世界の歴史と文化	2					
				現代社会と哲学	2	東北の歴史と文化	2				
				人と宗教	2	現代社会の諸相	2				
				心理学	2	憲法	2				
	NS	選択	数理科学	2	環境科学入門	2					
				生命科学	2	地球と宇宙	2				
				数学概論	2	基礎統計学	2				
				物理概論	2						
		○ 化学概論	2								
		○ 生物概論	2								
	AS	選択	音楽	2	美術	2					
				健康科学	2						
				スポーツ科学	1						
				スポーツ実技	1	体を動かす楽しみ	1				
	留学生	選択	日本語 I	1	日本語 II	1	日本語 III	1	日本語 IV	1	
				日本事情 I	2	日本事情 II	2				
全学共通科目			産学連携講座 I		1	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2	コミュニティ・プランナー実践論	2		
			産学連携講座 II		1	●国 グローバルインターンシップ	2	●国 学外研修	2		
専門教育科目	専門基礎科目	必修	● 人間発達学	2	● 人間関係論	2	● 病態学	2	● 栄養学	2	
			● 医療倫理学	2	● 形態機能学 III	1	● 疾病論 I	1	● 疫学 I	2	
			● 形態機能学 I	1	● 薬理学	2	● 疾病論 II	1	● 疾病論 III	1	
			● 形態機能学 II	1	● 公衆衛生学	2	● 看護情報学 I	1			
		選択必修									
		選択	各自の学修目的・目標に合わせて履修			臨床心理学	2	保健行動科学	2	看護情報学 II	1
							家族社会学	2			
						社会福祉学	2				
						学校保健論	2				
		専門科目	必修	● 看護学原論	2	● ライフステージ看護学概論 I	2	● ライフステージ看護学概論 II	2	● 看護実践論	2
				● 看護技術論	2	● 看護援助技術論 II	1	● 地域看護学概論	2		
				● 看護援助技術論 I	1	● 看護援助技術論 III	1	● 家族看護論	2		
						● 成人看護援助論 I	2	● 母性看護援助論 I	2		
					● 老年看護援助論 I	2	● 小児看護援助論 I	2	● 精神看護援助論 I	2	
					● 基礎看護学実習	3		● 在宅看護援助論 I	2		
	選択	深めたい専門知識・技術に合わせて履修			災 災害活動論	2			治療看護論	2	
								教育学概論	2	教育課程論	2
養護教諭教育課程 (卒業要件外)							教育心理学	2	教育相談の基礎と方法	2	
								養護概説	2		
履修条件	必修単位数	基盤: 15 単位 専門基礎・専門: 20 単位				基盤: 2 単位 専門基礎・専門: 35 単位					
	選択必修単位数					基盤教育科目: 8 単位					
	履修単位数の上限	49 単位 (基盤教育科目 35 単位)				49 単位					

2 看護学類の科目配当

(3) 養護教諭教育課程科目配当表

科目区分			1 年次				2 年次					
			前期		後期		前期		後期			
履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	履修	科目名	単位	
基盤教育科目	FC	必修	● 社会の中で生きる	● アカデミック・セミナー	2	留學生は11単位必修						
			● スタートアップ・セミナー	● 情報化社会と技術	2	● English Reading Skills I	● English Reading Skills II	1	● English for Academic Purposes I	1	留學生は2単位以上選択必修	
	● 地域フィールドワーク	● English Self-Expression I	1	● English Self-Expression II	1	● English Self-Expression III	1					
	GC	選択	● Intercultural Communication	● Global Studies I	2	● Global Studies II	2			● English for Academic Purposes II	1	
			● Global Studies I	● 中国語 I	1	● 中国語 II	1			● Extensive Listening	1	
				● 韓国語 I	1	● 韓国語 II	1					
				● ベトナム語 I	1	● ベトナム語 II	1					
	SS	選択	● 日本の歴史と文化	● 世界の歴史と文化	2							
			● 現代社会と哲学	● 東北の歴史と文化	2	● 憲法	2					
				● 人と宗教	2	● 社会と経済	2					
			● 心理学	2								
NS	選択	● 数理科学	● 環境科学入門	2								
		● 生命科学	● 地球と宇宙	2								
			● 数学概論	2	● 基礎統計学	2						
			● 物理概論	2								
			○ 化学概論	2								
			○ 生物概論	2								
AS	選択	● 音楽	● 美術	2								
		● 健康科学		2								
			● スポーツ科学	1	● 体を動かす楽しみ	1						
			● スポーツ実技	1								
留學生	選択	● 日本語 I	● 日本語 II	1	● 日本語 III	1	● 日本語 IV	1				
		● 日本事情 I	● 日本事情 II	2								
全学共通科目			産学連携講座 I		1	● コミュニティ・プランナー概論及び演習	2	● コミュニティ・プランナー実践論	2			
			産学連携講座 II		1	● 国○ グローバルインターンシップ	2	● 国○ 学外研修	2			
専門教育科目	専門基礎科目	必修	● 人間発達学	● 人間関係論	2	● 病態学	2	● 栄養学	2			
			● 医療倫理学	● 形態機能学 III	1	● 疾病論 I	1	● 疫学 I	1			
	● 形態機能学 I	● 薬理学	2	● 疾病論 II	1	● 疾病論 III	1					
	● 形態機能学 II	● 公衆衛生学	2	● 看護情報学 I	1							
	選択必修	● 臨床心理学	2	● 学校保健論	2							
	選択	各自の学修目的・目標に合わせて履修		● 保健行動科学	2							
				● 家族社会学	2							
					● 社会福祉学	2						
							● 看護情報学 II	1				
	専門科目	必修	● 看護学原論	● ライフステージ看護学概論 I	2	● ライフステージ看護学概論 II	2	● 看護実践論	2			
			● 看護技術論	2	● 看護援助技術論 II	1	● 地域看護学概論	2				
		● 看護援助技術論 I	1	● 看護援助技術論 III	1	● 家族看護論	2					
				● 成人看護援助論 I	2	● 母性看護援助論 I	2					
					● 老年看護援助論 I	2	● 小児看護援助論 I	2				
			● 基礎看護学実習			3	● 精神看護援助論 I	2				
						● 在宅看護援助論 I	2					
選択	深めたい専門知識・技術に合わせて履修		● 災害活動論	2			● 治療看護論	2				
養護教諭教育課程 (卒業要件外)						● 教育学概論	2	● 教育課程論	2			
						● 教育心理学	2	● 教育相談の基礎と方法	2			
							● 養護概説	2				
履修条件	必修単位数	基盤: 15 単位 専門基礎・専門: 20 単位				基盤: 2 単位 専門基礎・専門: 35 単位 卒業要件外: 10 単位						
	選択必修単位数	専門基礎: 2 単位				基盤教育科目: 8 単位 (「憲法」・「スポーツ実技」) 専門基礎: 2 単位						
	履修単位数の上限	49 単位 (基盤教育科目 35 単位)				49 単位						

【凡例】

●: 必修科目 ●養: 養護教諭教育課程必修科目 ◎: 推奨科目 国: 国際看護プログラム関連科目
 国◎: 国際看護プログラム選択推奨科目 災: 災害看護プログラム関連科目 FC: フレッシュマンコア
 GC: グローバルコミュニケーション SS: ソーシャルサイエンス NS: ナチュラルサイエンス AS: アートサイエンス

3年次					4年次					卒業要件	
前期			後期		前期			後期		17単位 修得	指定なし
履修	科目名	単位	履修	科目名	履修	科目名	履修	科目名	単位		
										2単位以上 修得	必修を含めて 25単位以上 修得
										4単位以上 修得	
										2単位以上 修得	
										留学生のみ 履修可能	
										全学共通科目は 卒業要件単位に 含まない	
											必修を含めて 126単位以上 修得
										必修科目を 含めて 23単位以上 修得	
											必修科目を 含めて 78単位以上 修得
											26単位修得 (卒業要件外)
											144単位
											8単位以上
											6単位
											必要単位数:158単位以上

時間割をもとに履修したい
科目・時期を各自決定

留学生は日本語Ⅳ
以外必修

「からだを動かす楽しみ」含む)

3 卒業に必要な単位数及び卒業要件

卒業するためには4年以上在学し、最低限、次の表に示す所定の単位を修得しなければなりません。

区分		配当単位数	必修単位数	選択必修	選択	必要単位数
基盤教育科目	フレッシュマンコア (FC)	17	17 (留学生:11)	0 (留学生:2)	0	17 単位 (留学生:13 単位以上)
	グローバルコミュニケーション分野 (GC)	15	0	0	0	指定なし
	ソーシャルサイエンス分野 (SS)	18	0	0	2 以上	2 単位以上
	ナチュラルサイエンス分野 (NS)	18	0	0	4 以上	4 単位以上
	アートサイエンス分野 (AS)	9	0	0	2 以上	2 単位以上
	留学生対象	留学生のみ 8	留学生のみ 7	0	0	留学生のみ 7 単位以上
全学共通科目		10	0	0	0	(卒業要件外)
専門基礎科目		43	23	0	20	23 単位以上
専門科目		102	78	0	24	78 単位以上
養護教諭教育課程 (卒業要件外)		26	0	26	0	(卒業要件外)
合計		265	卒業要件単位数			126 単位以上

25 単位以上

4—教育課程の特色

看護学類では、全員対象の看護師教育課程と希望により選択する保健師教育課程、養護教諭教育課程があります。看護の専門的な学びを深めるプログラムとして、災害看護プログラムと国際看護プログラムを設置し、学生の主体的な学びを通して、さまざまな場で活躍できる看護職の育成を目指しています。

(1) 基盤教育科目

詳細は履修登録ガイドV基盤教育の章を確認してください。

(2) 専門教育科目

① 専門基礎科目〔23単位必修〕

専門基礎科目は、看護学の近接領域や基礎段階で履修する科目群です。

健康についての多角的な理解と、看護学の理解のために必要な関連科学の知識を養うものです。

② 専門科目〔78単位必修〕

看護学の基本または柱となる科目群で、基盤看護学（基礎看護学・看護管理学）、成熟期看護学（精神看護学・成人看護学・老年看護学）、次世代育成看護学（母性看護学・小児看護学）、広域看護学（地域看護学・在宅看護学）の4分野（9領域）から構成されています。看護学の理論的理解と実践面に関する看護技術、ライフステージ看護学概論および領域ごとの看護援助論等を配置し、看護学の基礎的知識と技術を修得するものです。さらに、看護の基本的知識を応用する能力および研究的視点を養うため、総合実習や卒業研究を配置しています。

※「災害看護プログラム」について

災害直後をはじめ災害サイクル各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を備え、将来、医療・行政・学校等の各分野において災害看護の一端を担える人材の育成をねらいとしたプログラムです。関連科目として指定された科目を履修し、かつ所定の単位を修得した学生には、修了証が授与されます。

学年	学期	災害看護プログラム構成科目	
1年次	後期	災害活動論（選択）	
3年次	前期	看護マネジメントⅠ（必修）	
4年次	前期	救急・災害看護論（選択）	(卒業研究（必修）)
	後期	災害看護支援論（選択）	

※「国際看護プログラム」について

国際協力の現場や国内における看護の場で、異文化の人々を理解し、看護実践及び関係者と協働できるための基盤となる基礎的能力の修得を支援するプログラムです。関連科目として指定された科目を履修し、かつ所定の単位を修得した学生には、修了証が授与されます。

国際看護プログラムの構成科目には指定されていませんが、グローバルインターンシップや学外研修も選択を推奨しています。

学年	学期	国際看護プログラム構成科目	
1年次	前期	English Reading Skills Ⅰ（必修） English Self-Expression Ⅰ（必修）	
	後期	English Reading Skills Ⅱ（必修） English Self-Expression Ⅱ（必修）	
2年次	前期	English for Academic Purposes Ⅰ（必修） English Self-Expression Ⅲ（必修） Intercultural Communication（選択）（1・2年前期）	
	後期	English for Academic Purposes Ⅱ（選択）	
3年次	前期	実践看護英語演習（選択）	
4年次	前期	国際比較看護論（選択）	(卒業研究（必修）)
	後期		

5 看護師教育課程

所定の単位を修得し看護師教育課程を修了すると看護師国家試験受験資格を取得することができます。教育課程の特徴、各年次における履修科目は、「看護師教育課程科目配当表」（46P-47P）と「履修モデル」（58P-61P）を参照してください。また、看護師教育課程科目の学修の順序性や科目間の関連性については、「看護学類科目関連図（看護師教育課程）」（P42）を参照してください。

看護学群では、大学卒業時の到達状況の自己評価として「学びの振り返り」を実施しています。「学びの振り返り」は冊子体で、大学卒業時の到達目標を把握すること、自ら実際に評価して自分の学びを振り返ること、自分の到達状況と課題を認識することを目的に、実習後や各学年終了時に到達度を自己評価するとともに今後の課題を認識するために利用します。

看護学群でのキャリア開発として、1年次からのキャリアガイダンスを通し、学生自身がどのような将来を設定し、その目標に向かってどのように取り組み進めていけばよいのか、先輩や様々な看護職の方々と出会う中で学び、充実した学生生活を送れるように支援しています。また、模擬試験や解説会、特別講座等を開催し国家試験に向けた取り組みも行っています。

6 保健師教育課程

(1) 保健師国家試験受験資格について

所定の単位を修得し保健師教育課程を修了すると、「保健師国家試験受験資格」を取得することができます。「保健師国家試験受験資格」の取得に当たっては、看護学群の必修科目のほか、宮城大学履修規程の別表1の「卒業要件」の欄に「保健師国家試験受験に必修」と示してある授業科目について、すべて履修し、単位を修得する必要があるため、履修漏れのないよう十分注意してください。

各年次における履修科目は、「保健師教育課程科目配当表」(48P-49P)と「履修モデル」(58P-61P)を参照してください。また、保健師教育課程科目の学修の順序性や科目間の関連性については、「看護学群科目関連図（保健師教育課程）」(43P)を参照してください。

なお、「保健師国家試験受験資格」と「養護教諭一種免許状」の両方を取得することはできません。

(2) 選択科目の履修・単位修得について

「保健師国家試験受験資格」を取得するために単位修得が必要な選択科目は次のとおりです。

① 専門基礎科目

- ・保健医療福祉行政論（3年前期開講 2単位）
- ・疫学Ⅱ（4年後期開講 2単位）

② 専門科目

- ・公衆衛生看護援助論（3年前期開講 2単位）
- ・公衆衛生看護活動論Ⅰ（4年前期開講 2単位）
- ・公衆衛生看護活動論Ⅱ（4年前期開講 2単位）
- ・公衆衛生看護活動論演習Ⅰ（4年前期開講 1単位）
- ・公衆衛生看護活動論演習Ⅱ（4年前期開講 1単位）
- ・公衆衛生看護マネジメント（4年後期開講 2単位）
- ・公衆衛生看護学実習（4年後期開講 3単位）

(3) 「公衆衛生看護学実習」について

「公衆衛生看護学実習」は、4年次の8月末から9月末にかけて3週間行います。履修については、保健師国家試験受験資格を取得しようとする動機や成績等、一定の条件を必要とし、3年次の前期に希望を調査し、4年次までに履修者を選抜します。

選抜に当たっては、3年次に開講している上記科目の単位修得をしている学生が対象となります。

保健師教育課程の履修に際しては、自らの進路について十分考慮し、履修をすすめてください。

7 養護教諭教育課程

(1) 養護教諭一種免許状の取得について

所定の単位を修得し、養護教諭教育課程を修了すると、教育職員免許法に基づく「養護教諭一種免許状」を取得することができます。免許状の取得に当たっては、宮城大学履修規程の別表7「養護教諭一種免許状に係る授業科目」に掲げるすべての授業科目を履修し、単位を修得してください。

修得しなければならない単位の授業科目は、看護学群の必修科目のほか、「基盤教育科目」「専門教育科目（専門基礎科目、専門科目）」における選択科目も含まれています。また、「教職に関する科目」については全科目の単位修得が必要になります。それぞれ履修漏れのないよう十分注意してください。

各年次における履修科目は、「養護教諭教育課程科目配当表」(50P-51P)と「履修モデル」(58P-61P)を参照してください。また、養護教諭教育課程科目の学修の順序性や科目間の関連性については、「看護学群科目関連図（養護教諭教育課程）」(P44)を参照してください。

(2) 選択科目の履修・単位修得について

養護教諭一種免許状を取得するために単位修得が必要な選択科目は次のとおりです。

①基盤教育科目

- ・スポーツ実技（1・2年開講 1単位）
- ・体を動かす楽しみ（1・2年開講 1単位）
- ・憲法（1・2年開講 2単位）

※時間割の関係上、上記3科目を2年次以降に履修することができない場合があるので、必ず1年次に履修し、単位を修得してください。

②専門基礎科目

- ・臨床心理学（1年後期開講 2単位）
- ・学校保健論（2年前期開講 2単位）

③専門科目

- ・救急・災害看護論（4年前期開講 2単位）

④教職に関する科目等

- ・教育学概論（2年前期開講 2単位）
- ・教育心理学（2年前期開講 2単位）
- ・教育相談の基礎と方法（2年後期開講 2単位）
- ・教育課程論（2年後期開講 2単位）
- ・教職論（3年前期開講 2単位）
- ・養護概説（2年後期開講 2単位）
- ・道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導（3年前期開講 2単位）
- ・教育の方法（4年前期開講 2単位）
- ・健康相談活動（3年前期開講 2単位）
- ・教職実践演習〈養護教諭〉（4年後期開講 2単位）
- ・特別支援教育（4年前期開講 1単位）
- ・養護実習（4年後期開講 5単位）

(3) 養護実習・教職実践演習について

「養護実習」は、4年次の8月末から9月末にかけて3週間、学校での実習を行います。その実習に関する、学内での事前事後指導を含めます。さらにその実習をふまえて、4年次後期科目「教職実践演習」では、養護教諭教育課程の学びの最終的なまとめを行っていきます。「養護実習」の履修については、3年次の前期に希望を調査します。

養護教諭教育課程の履修に際しては、自らの進路について十分考慮し、履修をすすめてください。

8 履修での留意事項等

履修に当たっては、次の事項にも注意してください。

- ① 基盤教育科目は、複数年次開講していますが、時間割によっては希望する年次に履修できない場合があります。時間割上、基盤教育科目と必修科目が同一時限で重複する場合は、必修科目の履修が優先されるので、慎重に選択してください。
- ② 専門教育科目は、開講年次（履修する学年）が定められています。定められた開講年次（履修学年）以外での履修は、原則としてできません。
- ③ 時間割上、授業科目は同一時限で複数科目開講されていますが、履修できる科目は、原則として1時限1科目です。
- ④ 臨地実習の実施の時期は、次のとおりです。
 - ・ 基礎看護学実習（1年次2月下旬～3月上旬、2年次8月下旬～9月上旬の夏季休業中）
 - ・ 領域別看護学実習（3年次9月上旬～3月上旬）
 - ・ 総合実習（4年次5月下旬～6月上旬）

1

看護学群
看護学類
について

2

看護学類の
科目配当

3

卒業に
必要な
単位数
及び
卒業要件

4

教育課程
の
特色

5

看護師
教育課程

6

保健師
教育課程

7

養護教諭
教育課程

8

履修での
留意事項
等

9

履修
モデル

9 履修モデル

履修モデルは、看護師教育課程、保健師教育課程、養護教諭教育課程の各教育課程と、国際看護プログラム、災害看護プログラムの各プログラム修了のために必要な科目とその単位数を、科目配当年次ごとに示したものです。また、各教育課程とプログラムにおける必修科目、推奨科目、資格取得に必要な科目を明記しています。各教育課程において将来目指すべき看護職像や学修目的に適した履修を行っていきましょう。

【看護師教育課程】

基盤教育科目と並行して、専門基礎科目および専門科目を学修し、科学的根拠に基づく創造的・実践的な専門教育により、病院をはじめ、さまざまな保健医療福祉機関で看護活動が展開できる基礎的能力を有する看護専門職を目指す。

【保健師教育課程】

看護師教育課程を基盤に、公衆衛生看護の基礎となる知識や、地域で生活する人々および地域社会が抱える健康課題の解決に向けて主体的に保健活動を展開できる実践能力を修得し、自治体や企業等、地域で活躍できる保健師を目指す。

【養護教諭教育課程】

看護師教育課程を基盤に、看護学を基礎とした科学的思考と根拠に基づいた支援方法を学び、加えて教職や養護に関する知識や技術を修得し、小・中・高等学校や特別支援学校等で活躍できる養護教諭を目指す。

〔国際看護プログラム〕

基盤教育における英語教育および国際看護に関わる専門科目での学修と各自の学習到達目標に基づく主体的な取り組みをとおり、英語実践力の向上に加え、国際理解、異文化理解を深め、グローバルな視野をもつ国内外で活躍できる看護職を目指す。

〔災害看護プログラム〕

災害看護に関わる専門科目での学修と各自の学習到達目標に基づく主体的な取り組みをとおり、多様な場で、災害各期において支援ができる看護の基礎的知識と技術を身につけた看護職を目指す。

凡例：●…必修 ○…選択科目 ◎…選択科目（選択が推奨されるもの） ★…資格取得に関連する科目

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	授業形態	教育課程					卒業要件		
					看護師	保健師	養護教諭	国際看護	災害看護	プログラム	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2
フレッシュマンコア	スタートアップ・セミナー	1前	2	講義	●	●	●				17単位必修 ※ただし留学生については備考のとおりとする	留学生は11単位必修
	社会の中で生きる	1前	1	講義	●	●	●					
	アカデミック・セミナー	1後	2	講義	●	●	●					
	地域フィールドワーク	1前	2	講義	●	●	●					
	情報化社会と技術	1後	2	講義	●	●	★					
	データサイエンス入門	1前	2	講義	●	●	●					
	English Reading Skills I	1前	1	演習	●	●	★	●				
	English Self-Expression I	1前	1	演習	●	●	★	●				
	English Reading Skills II	1後	1	演習	●	●	★	●				
	English Self-Expression II	1後	1	演習	●	●	★	●				
グローバルコミュニケーション	English for Academic Purposes I	2前	1	演習	●	●	★	●			留学生は2単位以上選択必修	
	English Self-Expression III	2前	1	演習	●	●	★	●				
	English for Academic Purposes II	2後	1	演習				○				
	Extensive Listening	2後	1	演習								
	Practical English	2前	1	演習								
	中国語Ⅰ	1・2前	1	演習								
	中国語Ⅱ	1・2後	1	演習								
	韓国語Ⅰ	1・2前	1	演習								
	韓国語Ⅱ	1・2後	1	演習								
	ベトナム語Ⅰ	1・2集中	1	演習								
ソーシャルサイエンス	ベトナム語Ⅱ	1・2集中	1	演習								
	Global Studies I	1・2前	2	講義								
	Global Studies II	1・2後	2	講義								
	Intercultural Communication	1・2前	2	講義				○				
	日本の歴史と文化	1・2前	2	講義						必修科目を含めて25単位以上修得	2単位以上修得	
	世界の歴史と文化	1・2後	2	講義								
	東北の歴史と文化	1・2後	2	講義								
	人と宗教	1・2前	2	講義								
	現代社会と哲学	1・2前	2	講義								
	心理学	1・2前	2	講義								
現代社会の諸相	1・2後	2	講義									
憲法	1・2後	2	講義			★						
社会と経済	1・2後	2	講義									
ナチュラールサイエンス	数学概論	1・2前	2	講義								4単位以上修得
	生命科学	1・2前	2	講義								
	環境科学入門	1・2後	2	講義								
	地球と宇宙	1・2後	2	講義								
	数学概論	1・2前	2	講義								
	物理概論	1・2前	2	講義								
	化学概論	1・2前	2	講義	◎	◎	◎					
	生物概論	1・2前	2	講義	◎	◎	◎					
	基礎統計学	1後	2	講義								
	アートサイエンス	音楽	1・2前	2	講義						2単位以上修得	
美術		1・2後	2	講義								
健康科学		1・2前	2	講義								
スポーツ科学		1・2前	1	講義								
スポーツ実技		1・2前	1	実験・実習			★					
体を動かす楽しみ		1・2後	1	実験・実習			★					
留学生対象		日本語Ⅰ	1前	1	演習							留学生のみ履修可能
	日本語Ⅱ	1後	1	演習								
	日本語Ⅲ	2前	1	演習								
	日本語Ⅳ	2後	1	演習								
	日本事情Ⅰ	1前	2	講義								
	日本事情Ⅱ	1後	2	講義								
全学共通科目	コミュニティ・プランナー概論及び演習	2前	2	講義						卒業要件単位に含まない	国際看護プログラム 選択推奨科目	
	コミュニティ・プランナー実践論	2後	2	講義								
	コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習	3前	2	演習								
	グローバルインターンシップ	1・2集中	2	演習				◎				
	学外研修	1・2集中	2	演習				◎				
	産学連携講座Ⅰ	1・2通	1	講義								
	産学連携講座Ⅱ	1・2通	1	講義								

凡例：●…必修 ○…選択科目 ◎…選択科目（選択が推奨されるもの）★…資格取得に関連する科目

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	授業形態	教育課程			プログラム		卒業要件		備考
					看護師	保健師	養護教諭	国際看護	災害看護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	
2 看護学類の科目配当	人間発達学	1前	2	講義	●	●	●			必修科目を含めて 23単位以上 修得		
	臨床心理学	1後	2	講義			★					
	保健行動科学	2前	2	講義								
	医療倫理学	1前	2	講義	●	●	●					
	人間関係論	1後	2	講義	●	●	●					
	形態機能学Ⅰ	1前	1	講義	●	●	★					
	形態機能学Ⅱ	1前	1	講義	●	●	★					
	形態機能学Ⅲ	1後	1	講義	●	●	★					
	薬理学	1後	2	講義	●	●	★					
	栄養学	2後	2	講義	●	●	★					
	家族社会学	2前	2	講義								
	社会福祉学	2前	2	講義								
	公衆衛生学	1後	2	講義	●	●	★					
	疫学Ⅰ	2後	2	講義	●	★	★					
	疫学Ⅱ	4後	2	講義		★						
	保健医療福祉行政論	3前	2	講義		★						
	学校保健論	2前	2	講義			★					
	病態学	2前	2	講義	●	●	★					
	疾病論Ⅰ	2前	1	講義	●	●	★					
	疾病論Ⅱ	2前	1	講義	●	●	★					
	疾病論Ⅲ	2後	1	講義	●	●	●					
	リハビリテーション学	3前	2	講義								
	代替療法	4後	2	講義								
看護情報学Ⅰ	2前	1	演習	●	●	●						
看護情報学Ⅱ	2後	1	講義									
応用看護情報学	4前	1	講義									
5 看護師教育課程	看護学原論	1前	2	講義	●	●	★			必修科目を含めて 78単位以上 修得		
	看護実践論	2後	2	講義	●	●	★					
	ライフステージ看護学概論Ⅰ	1後	2	講義	●	●	★					
	ライフステージ看護学概論Ⅱ	2前	2	講義	●	●	★					
	地域看護学概論	2後	2	講義	●	★	★					
	看護学研究法	4前	2	講義	●	●	●					
	国際比較看護論	4前	2	講義				○				
	家族看護論	2後	2	講義	●	●	★					
	災害活動論	1後	2	講義				○				
	救急・災害看護論	4前	2	講義			★					
	災害看護支援論	4後	2	講義				○				
	実践看護英語演習	3前	1	講義				○				
	治療看護論	2後	2	講義								
	看護技術論	1後	2	講義	●	●	★					
	看護援助技術論Ⅰ	1後	1	演習	●	●	●					
	看護援助技術論Ⅱ	2前	1	演習	●	●	●					
	看護援助技術論Ⅲ	2前	1	演習	●	●	●					
	母性看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●					
	母性看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	小児看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★					
	小児看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	★					
	成人看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●					
	成人看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	成人看護援助論Ⅲ	3前	2	講義	●	●	●					
	老年看護援助論Ⅰ	2前	2	講義	●	●	●					
	老年看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	精神看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	★					
	精神看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
	地域看護援助論	3前	2	講義	●	★	●					
	看護マネジメントⅠ	3前	2	講義	●	●	●	●				
	看護マネジメントⅡ	4前	2	講義	●	●	●					
	在宅看護援助論Ⅰ	2後	2	講義	●	●	●					
	在宅看護援助論Ⅱ	3前	2	講義	●	●	●					
緩和ケア論	4前	2	講義	●	●	●						
卒業研究	4通	2	演習	●	●	●						
基礎看護学実習	1後～2前	3	実験・実習	●	●	★						
母性看護学実習	3後	2	実験・実習	●	●	●						
小児看護学実習	3後	2	実験・実習	●	●	★						
成人看護学実習	3後	6	実験・実習	●	●	●						
老年看護学実習	3後	3	実験・実習	●	●	●						
精神看護学実習	3後	2	実験・実習	●	●	●						
地域看護学実習	3後	2	実験・実習	●	★	●						
在宅看護学実習	3後	1	実験・実習	●	●	●						

凡例：●…必修 ○…選択科目 ◎…選択科目（選択が推奨されるもの） ★…資格取得に関連する科目

科目区分	授業科目	配当年次	単位数	授業形態	教育課程			プログラム		卒業要件		
					看護師	保健師	養護教諭	国際看護	災害看護	区分ごとの要件1	区分ごとの要件2	備考
専門教育科目	専門科目	総合実習	4前	2	実験・実習	●	●	●			必修科目を含めて78単位以上修得	
		公衆衛生看護援助論	3前	2	講義	★						
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	4前	2	講義	★						
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	4前	2	講義	★						
		公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	4前	1	演習	★						
		公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	4前	1	演習	★						
		公衆衛生看護マネジメント	4後	2	講義	★						
		公衆衛生看護学実習	4後	3	実験・実習	★						
養護教諭一種免許状に係る科目	養護に関する科目	養護概説	2後	2	講義			★				
		健康相談活動	3前	2	講義			★				
	教職に関する科目	教職論	3前	2	講義			★			卒業要件単位に含まない	養護教諭一種免許状取得に必修
		教育学概論	2前	2	講義			★				
		教育心理学	2前	2	講義			★				
		教育課程論	2後	2	講義			★				
		教育の方法	4前	2	講義			★				
		教育相談の基礎と方法	2後	2	講義			★				
		特別支援教育	4前	1	講義			★				
		道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	3前	2	講義			★				
		養護実習	4後	5	実験・実習			★				
		教職実践演習（養護教諭）	4後	2	演習			★				
		基盤教育科目、専門基礎科目、専門科目の合計					122	139	158	卒業要件単位数126単位以上修得		

MIYAGI
UNIVERSITY
CURRICULUM
GUIDE 2020

宮城大学
履修ガイド
看護学群